

2 0 1 9 年度

事 業 報 告 書

と も え 学 園

2019年度事業報告書

ともえ学園

1 利用者の状況

①年間の入退所者状況

定員70名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月初在園数	70	70	70	69	70	70	70	70	70	70	70	70
入所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末在園数	70	70	69	70	70	70	70	70	70	70	70	70

②短期入所事業受入状況

定員2名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	2	4	4	2	3	4	4	6	5	3	4	4	45
受入回数	2	4	5	2	4	6	4	6	7	4	6	6	56
受入延日数	33	50	43	37	36	43	47	48	52	40	45	52	526

③日中一時支援事業受入状況

定員 若干名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受入回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受入延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④在所者状況（令和2年3月31日現在）

年 齢	男	女	計
18～20歳未満	0	0	0
20～25歳未満	0	0	0
25～30歳未満	3	1	4
30～35歳未満	4	0	4
35～40歳未満	3	0	3
40～45歳未満	7	0	7
45～50歳未満	19	0	19
50～55歳未満	16	2	18
55～60歳未満	10	1	11
60～65歳未満	4	0	4
65～70歳未満	0	0	0
計	66	4	70

在 園 年 数	男	女	計
0～1年未満	0	1	1
1～5年未満	2	0	2
5～10年未満	4	0	4
10～15年未満	5	0	5
15～20年未満	6	0	6
20～30年未満	36	2	38
30～35年未満	13	1	14
計	66	4	70

診 断 名	男	女	計
自閉症	50	3	53
精神発達遅滞	10	0	10
てんかん	4	0	4
統合失調症	1	1	2
その他	1	0	1
計	66	4	70

障害支援区分	男	女	計
6	29	1	30
5	25	3	28
4	12	0	12
3	0	0	0
計	66	4	70

出身市区町	広島市中区	広島市東区	広島市南区	広島市佐伯区	広島市安佐北区	広島市安佐南区	広島市安芸区	大竹市	呉市	福山市	廿日市市	三次市	東広島市	尾道市	竹原市	江田島市	庄原市
男	3	2	5	9	3	4	1	2	9	5	1	3	1	2	1	1	2
女	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	3	7	9	3	4	1	2	9	5	1	3	1	2	1	1	2

安芸郡熊野町	世羅郡世羅町	島根県松江市	山口県防府市	山口県周南市	山口県岩国市	山口県下関市	岡山県真庭市	長崎県長崎市	東京都渋谷区	計
1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	66
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	70

(高田孝康)

2 トライアングルグループ

1 グループ目標

- ・利用者自身の自己決定、自己選択を尊重する。
- ・ひとり一人が安定した生活を送られるよう、明るく過ごしやすい生活環境と個別配慮された生活パターンを支援、提供していく。

2 生活全般

①目標：基本的生活習慣の確立を目指す。

- ・健康、清潔の維持に努める。

②内容

衣 類 整 理：衣類に付いては洗濯室より自分の衣類を持ち帰り、収める衣類を棚に収め入浴用のパジャマと下着をセットし浴室に持って行く。カゴは浴室前廊下で回収する。

- ・利用者と職員が一緒に行い、衣類の確認や棚の整理を行う。

＊衣類棚は常に施錠を行う。

- 衣 類：破れたりゴムが伸びた物は、補修したり新しい物と交換を行った。
 - ・季節に応じた衣類を着るよう支援を行ったり、不足している衣類は購入した。
 - ・正しい着こなしが出来る様に支援を行った。
- 食 事：配膳口からセルフでお膳にセットし、席まで移動後食べてもらう。
 - ・ゆっくり食べられる様に声掛けを行った。
 - ・安心して食事が出来る様に席にも配慮した。
- 入 浴：グループ毎での入浴を行う。洗体、洗髪が行えるよう個別の支援を取り組んだ。
 - ・入浴は少人数でゆっくりと入ってもらう。
 - ・入浴後皮膚疾患のある利用者には、個々の薬を塗布する。
 - ・踵や手の荒れを防ぐ為、クリームを塗布する。冬場はソックスを履いてもらう。
- 手 洗 い：飲食前やクラブ活動後などに、手洗いをを行う。
 - ・石鹸を泡立てて手を擦るなど確実な手洗いが行えるよう支援を行った。
 - ・手指乾燥機の使用の支援を行った。
- 整 容：朝食後の歯磨き後に洗顔出来る利用者は洗顔し、濡れたタオルで顔を拭いてもらう。
 - ・髭剃りは起床後から朝食までに夜勤職員が行う。出来ていない時には早出職員が行う
 - ＊髭剃りは毎週土曜日：充電、日曜日：掃除
- シーツ交換：毎週土曜日に交換。自分で交換出来る利用者はシーツは自分で交換をしてもらう。
 - ・失禁等で寝具が汚す利用者については、個別に敷きマットやラバーシーツ等を等を使用し寝具が汚れないように工夫した。ラバーシーツの更新（マットと一体型）する。
 - ・シーツが汚れたときは、速やかに交換を行った。
 - ・寝具が湿る利用者については、冬場以外は毎日布団を外へ干したり清潔に努めた。

健康管理

- ・月1回血圧、体組成測定、腹囲測定を行う。個別に毎日血圧、腹囲、体重測定を行った。
- ・毎週日曜日の午後、爪切り、耳チェックを行った。
- ・朝と昼は排便誘導や確認を行ったり、入浴時にも排便確認を行う。

③経過・課題：

- ・衣類整理時の衣類確認が出来ていない時もあり、棚に収める際には整理や確認を徹底していく。
- また、破れた衣類や名前の無い衣類等の交換の支援も行っていく。
- ・顔拭きタオルや水分補給用のコップ、ラバーシーツ等の更新を行った。
- ・食事前の手洗い（早く食堂に移動する利用者）の手洗い場所を変更した事で、食事前に確実に手洗いが出来る様になった。義歯や洗剤を入れる棚を設置した。

3 口腔ケア

①目的：口腔内の残渣物除去を行う。

- ・口腔内の健康維持を目指す。
- ・口腔内の異常の早期に発見し看護へ報告し治療してもらう。

①内容：毎食後の歯磨き支援を行う。

- ・利用者一名につき月一回、丁寧にブラッシングをし、口腔内のチェック等を行った。
- ・気づきを、表に記入した。緊急性と判断した利用者さんについては、看護に連絡、その他気づきは、月末にまとめて看護に報告した。

③経過、課題、まとめ

- ・毎週金曜日（行事がある日は除く）に居室の通り毎に口腔ケアを行った。
- ・毎週金曜日に口腔ケアの時間を設けたことで、口腔内を確認することができた。
- ・歯周、歯肉炎予防の為、コンクールを毎日1回昼食後の歯磨き時に使用した。
- ・歯ブラシは、朝食、昼食後は滅菌消毒器で消毒、夕食後はピューラックス薄め液で消毒殺菌を行った。
- ・毛先が開いた歯ブラシはその都度交換した。
- ・口腔内の清潔が健康状態にも関わって来ると思うので残渣物など可能な限り除去していく。

4 清掃

①目的：生活棟の清潔を保つ。

②内容：一日、3回のオキシヴィルファイブ128倍液に浸したモップでの床拭き掃除を行う。

（居室は一日一回）

- ・ドアノブ拭きをオキシヴィルファイブ128倍液に浸したクロスを使用して行う。
- ・トイレ掃除を一日3回定期的に行い、汚れなどがあつたと時には速やかに清掃した。
- ・汚れている布団やシーツはその都度交換した。
- ・一日一回天窓を開けて換気を行った。

③経過・課題

- ・布団乾燥については、天気の良い時には、外へ干した。
- ・年二回、グレーチング、窓のサンや窓、女性棟の浴室、倉庫等の清掃を行った。
- ・洗面所については、汚れが目立った時に清掃を行った。
- ・居室の棚やテレビの棚の下等汚れが目立つ所があるが、清掃の時間が取れないのが課題。
- ・トイレや居室で異臭がすることがある為、消臭が課題。

5 日課

クラブ活動

①目標：午前中は活動着に更衣をし、活動を行う。

- ・スムーズに活動できるよう準備や配慮を行う。
- ・個々に合ったことを楽しみながら行い、安定を図る。

②内容

- ・グラウンドの石拾い、雑草や枝木の運搬、廃棄を行った。
- ・雨天時は、室内ウォーキングを行った。

③経過

- ・バケツを使用してグラウンドの石拾い、遊歩道や学園周辺の伐採した枝木等の運搬を行った。1年間を通して怪我無く作業を行えた。
- ・毎月末、慰労会を行い、活動の報告、写真を見ながらの表彰、外注の間食を提供し1ヶ月の労を労った。

④課題

- ・見守りが必要な利用者、参加出来ない利用者があることで、全員参加での同じ活動は難しい。今後に向けて活動内容の見直しやグループ編成等も再度検討する必要がある。
- ・活動内容も利用者さんにあった物の提供を行う。元気な人はしっかりと動ける取り組みも必要。
- ・雨天時の活動について、ウォーキング以外も考えていく必要がある。

6 グループ活動

①目標：体力低下の防止と健康維持。

②内容

- ・室内ウォーキング、学園周りウォーキング、遊歩道ウォーキングを行った。

③経過

- ・晴天時には主に遊歩道ウォーキングや学園周りウォーキングを行い、天候不良時に室内ウォーキングに取り組んだ。また、脚の手術後や、アレルギー等で屋外に出られない利用者也室内ウォーキングに取り組んだ。

④課題

- ・室内ウォーキングでは分かりづらいが、遊歩道ウォーキングの際には一人一人の歩くペースの違いが顕著であり、職員数の関係から数班に分かれることも難しかったため、ペースの速い人には途中で待ってもらった必要があった。
- ・帽子やジャンパーなどの着脱や片付けについては職員主体で行っているため、今後は利用者自身で行えるよう工夫が必要。

7 作品作り

①目的：少人数で作品を作ることで、利用者の新たな側面を確認し今後の生活や活動の向上に繋げていく。

- ・作品作りを通して利用者がどのような作業ができるかを探し出す。
- ・利用者全員が個別に参加し作品作りに関わる。
- ・できあがった作品を見ることで最後まで頑張った事を感じる。
- ・文化祭で展示し発表の場とする。

②内容：文化祭に向けての作品として令和をテーマとした顔出しパネル作成

③経過・課題

- ・フェルトや折り紙の貼り付けは簡単な作業だった為全利用者が携わることが出来た。
- ・積極的に色塗りに参加してくれる利用者も数名おり、綺麗に塗る事が出来ていた。
- ・取りかかりが少し遅くなったが、その分、職員同士の連携もあり仕上げる事ができた。
- ・個別活動では時間いっぱい作品に取りかかる事が出来ていた。
- ・利用者の様子を記録用紙に記入したり、一人一人の写真を撮ることが出来た。

④経過・課題

- ・文化祭に展示をするための作品を直前になってからとりかかったので、年間を通して、取り組めるよう準備をする。
- ・一度に行う事は難しい為少人数で行えるよう計画する。

8 行事

①目標：利用者個々に応じた行事を提供する。

- ・季節感を実感したり、様々な体験をしてもらえる事で充実した生活を送ってもらう。
- ・誕生日を意識してもらい楽しい日を過ごす。

②内容

- ・季節の行事

月	日	行 事 名	参加人数	場所
4	3	お花見会	23名	高平山神社
5	8	バスハイキング	25名	鮎の里公園

6	7	バスドライブ	23名	江の川カヌー公園さくぎ
7	8	バスドライブ	26名	北の関宿
7	26	バスハイキング	24名	鮎の里
8	7	夏祭り	26名	プレイルーム、多目的棟
9	4	バスドライブ	26名	とみしの里
10	25	バスハイキング	24名	憩いの里
11	13	バスドライブ	25名	風土記の丘
12	5	忘年会	26名	プレイルーム 宝探し
1	10	新年会	26名	プレイルーム 絵馬
2	10	お楽しみ会	25名	プレイルーム レクリエーション
3	9	バスドライブ	25名	三次ワイナリー

・日帰り旅行

月	日	参加人数	場所
4	18	3名	千光寺（尾道市）
5	16	3名	豊平どんぐり村（北広島町）
6	13	2名	福山動物園
7	19	3名	松江フォーゲルパーク
8	23	3名	松江フォーゲルパーク
9	13	3名	きらら多岐
10	18	3名	東広島・憩いの森公園
11	26	3名	鏡山公園（東広島市）

・誕生者お祝い会

月	日	行 事 名	場所・備考
5	1	誕生者お祝い会	ファミリーマート・トライアングル宿直室
	17	誕生者お祝い会	CCプラザ（タカラブネ）
6	5	誕生者お祝い会	ナガタニ・CCプラザ
	18	誕生者お祝い会	ユニクロ・ジョイフル・シェーブプラザ
7	17	誕生者お祝い会	ブラン
	18	誕生者お祝い会	ファミレス（ジョイフル）フタバ図書（南畑敷店）
	23	誕生者お祝い会	ファミレス（ココス）
8	5	誕生者お祝い会	センター宿直室
	15	誕生者お祝い会	サングリーン・トライアングル宿泊室
	17	誕生者お祝い会	コニリア・ナフコ（東酒屋店）
	20	誕生者お祝い会	カドーベーカーリー・みよし運動公園
9	26	誕生者お祝い会	CCプラザ・みよし運動公園
	28	誕生者お祝い会	ファミリーマート・センター宿泊室
10	16	誕生者お祝い会	センター宿泊室
11	5	誕生者お祝い会	広島県立みよし公園
	18	誕生者お祝い会	ファミレス（ジョイフル）・フタバ図書（南畑敷店）
	19	誕生者お祝い会	ファミレス（ジョイフル）
	23	誕生者お祝い会	喫茶トラジャ
	23	誕生者お祝い会	サングリーン、センター宿泊室

12	20	誕生者お祝い会	ファミリーマート、センター宿泊室
	23	誕生者お祝い会	サングリーン
1	6	誕生者お祝い会	CCプラザ、センター宿泊室
	18	誕生者お祝い会	コンビニ・三次駅・きんさいスタジアム
2	21	誕生者お祝い会	ファミリーマート・トライアングル宿直室
3	12	誕生者お祝い会	CCプラザ（喫茶フルフル）

・慰労会

毎月月末にプレイルームでその月の映像を観て頑張った大賞の表彰を行った。

午後からの間食は食堂でスイーツを提供した。

月	日	間食	頑張った大賞
4	30	カスタードケーキ	シーツ交換・フラワー
5	28	カップショートケーキ	書道・活動披露会
6	28	チーズケーキ	退院して元気になった・病気回復
7	31	シフォンケーキ	フラワークラブ・健康体操
8	31	ストロベリーケーキ	石拾い・コップへの水汲み
9	30	どら焼き	ウォーキング・シーツ交換
10	31	モンブランケーキ	芋掘り・枝木運び
11	30	バウムクーヘン	野菜の収穫・フラワークラブ
12	27	プリン	フラワークラブ・クラブ活動
1	30	チョコレートケーキ	室内ウォーキング・年賀式
2	29	チョコプリン	布団の出し入れ・フラワークラブ
3	31	苺パフェ	ウォーキング・書道・フラワークラブ・グランドゴルフ 報告会での代表

・お楽しみ外出

月	日	参加人数	場所
4	23	3名	みよし公園
5	9	2名	風土記の丘
5	23	2名	コニリア
6	17	2名	ゆめランド布野、マクドナルド
7	22	3名	ココス、ダイソー
8	6	3名	みよし運動公園
9	25	3名	口和モーソー物産館
10	23	3名	三次公園
11	12	3名	ジョイフル
3	13	3名	庄原上野公園

③まとめ

- ・季節の行事は季節や気候に合わせた行事を行うことに努めた。
- ・ワックス掛けの日（7月と10月）は、外食を行った。部屋を貸し切った食事だったこともありみんな落ち着いて食事を行い、過ごす事もできた。
- ・日帰り旅行、お楽しみ外出、誕生者外出、誕生者お祝い会を行った。一回の外出で2～3名の利用者に対して2名の職員が付くことで体験などの支援を行うことができた。冬季は外出が出来な

いため日にちの確保が難しく、少人数での外出は年間で2～3回だった。

- ・誕生者お祝い会については、外泊や行事等で日にちがずれることもあるが、全ての利用者が担当職員と一対一でのお祝いを行うことができた。
- ・慰労会は毎月末に行った。カップケーキなど普段とは違った間食を提供でき利用者さんも楽しい日となっていた。

9 トライアングルレクリエーション

令和元年10月6日(日) 10:35～ 14:40 利用者25名 短期利用者1名 15家族 18名参加

①目的：利用者、ご家族、職員、三者の親睦を深めて楽しいひとときを過ごす。

②内容：午前～室内ゲーム（①ボーリング ②紙相撲 ③射的 ④ストラックアウト）

午後～パフェ作り

③反省・感想

- ・午前中のゲームでは少しドタバタしたが、全員が参加でき、時間も余裕があり、怪我やトラブルもなく過ごすことが出来た。
- ・午後の間食作りについては、利用者さんの混乱も無くスムーズに進行された。途中少し食べる方がおられたが、ほとんどが完成するまで食べることはなかった。
- ・一日を通して、職員が主にケース担当のご家族のもとを訪ねて回ることによって利用者さんの近況等の情報をご家族に伝えたり、昼食後にもご家族と話をする機会があり、それぞれ交流を深めたり、ある程度のコミュニケーションを図ることができた。間食作りには衛生面での問題があり、何を提供するか判断が難しい。今回は個包装のお菓子や材料を個別にカップに分けて配り、入れていくだけのパフェを作ってもらった

10 環境

①目的：破損等による事故予防。利用者が生活の向上のための環境の改善。

②内容：ベッド、壁の修繕、ドア、ドアクローザーなどの定期チェック。

- ・季節に応じた水道の温度設定。
- ・ベッド、畳み、水道蛇口の点検

③経過、課題

- ・ドアクローザーの取り付け土台の緩みの点検。
- ・壁は随時、修理している。
- ・居室ドア、押し入れの点検。
- ・ベッドの更新は必要に応じて随時行っていく。
108、304号室のベッドを更新 105号の室畳を更新
- ・利用者が安心して生活できる様に環境を整備して行く。

11 グループ会議

①目的：より良いサービスを提供できるように支援内容、各活動についての課題を協議する。

- ・ケースカンファレンスを行い支援の方法、見直しを行う。
- ・取り組みについての意識統一を図る。
- ・日々の生活がよりよい物になるよう提案、見直しを行う。

②内容

4月3日(水) 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
行事 利用者さん支援について(9名) 日課について

- 5月8日（水）運営会議より 部長より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より
危機管理委員会より 行事 活動 生活 職員の動きについて一確認
服薬について 利用者さん支援について（3名）
- 6月7日（金）運営会議より 部長より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
行事 利用者さん支援について（1名） 新規入所者について 服薬について
- 7月8日（月）運営会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より 部長より
行事 活動 利用者さん支援について（3名） 衣類整理について
- 8月7日（水）運営会議より 虐待防止委員会より 人権委員会より 危機管理委員会より
行事 クラブ活動について サービス向上委員会より
利用者さん支援について（3名）
- 9月4日（水）運営会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より 人権委員会より
支援部課長会議より 部長より トライアングルレクについて
利用者さん支援について（4名） クラブ活動について
- 11月13日（水）運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
人権委員会より 行事 衣類整理 入浴支援について 服薬について
- 12月5日（木）運営会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より 人権委員会より
サービス向上委員会より 部長より 行事 クラブ活動 ひげ剃りについて
利用者さん支援について（4名）
- 1月10日（金）運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
行事 薬の確認について 感染症が出た時の動き、夜勤リーダーの動き
入浴後のソックスについて 利用者さん支援について（2名）
- 2月10日（月）運営会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
サービス向上委員会より 行事 クラブ活動 利用者さん支援について（2名）
- 3月9日（月）運営会議より 支援部課長会議より 部長より 危機管理委員会より
行事 看護課長より 利用者さん支援について（4名）

③経過、課題

- ・支援については利用者さんの様子や変化について、ケース担当者を中心に情報の共有、支援方法の検討や統一を図るよう話し合った。
- ・日々の業務についても、よりスムーズに業務が行えるよう話し合った。
- ・なかなか会議までに議題が出ていなかったのを考えて出席する事ができていなかった。しかし積極的に意見は出ていたと思う。
- ・利用者さんの様子や行動は、日々同じではないので今後もお互いの情報を報告、確認しながら必要に応じて支援方法の見直しをしていく必要がある。

12 まとめ

- ・利用者さんについては7月に女性利用者さんが退所され新しく入所された。8ヶ月が経過し生活にも慣れて日々落ち着いて過ごされている。骨折で入院された利用者さんもおられたが退院後の経過もよく現在は他の利用者さんと一緒に生活をされている。昨年も3月に精神科へ入院されていたFさんが今年度も2月17日より2週間入院され現在は以前に比べると随分落ち着いた生活をされている。
- ・食後の服薬について、服薬場所を生活棟から食堂へ変更した。思ったほどの混乱もなく利用者さん

もスムーズに受け入れ定着している。薬を保管する引き出し付きのカートも購入。

- ・クラブ活動については、午前は活動着に着替えて実施。内容については日中活動課より指示があり主に枝木運び、石拾い等を行った。畑の作物についても日中活動で管理となった。
- ・外出については、日帰り旅行、お楽しみ外出については1人各1回ずつ実施した。日帰り旅行については体調不良、感染症対策として実施出来なかった利用者さんもあった。また誕生日のお祝い会は短い時間ではあるが、担当者と1対1で関われる時間となった。
- ・中庭利用者玄関に屋根が設置され雨天時の外出時も濡れる心配がなくなった。
- ・日々の日誌の記入方法を手書きからパソコン入力へと変更。現在は定着でき情報の共有化もできている。
- ・健康面においては、1名インフルエンザに罹患するがそれ以上出ることはなく元気に過ごせた。
- ・口腔ケアや清掃、除菌などの感染症予防を引き続き継続する。
- ・今後も利用者さんの人権を守り、安全で安心した生活が送れるよう統一した支援をおこなう。そして利用者さん、職員共健康に留意し、毎日を生き活きと過ごせるよう配慮する。

(藤田由香里、岩戸洋三、桑田樹実、濱本 豊、竹林祐樹、高森 強

金田和夫、圓藤久明、土橋羅夢、岩増文生、熊澤誠治)

3 レインボーグループ

1 グループ目標

- ・言語的、非言語的コミュニケーションのあり方を取り入れた対応をし、安定して穏やかに生活できるよう個別配慮をした支援をする。
- ・体力作り、健康保持を考慮したプログラムを考える。
- ・安全で清潔な生活環境を提供する。
- ・楽しみのある生活を送る。

2 生活

1) 生活全般

①目的：基本的生活習慣の確立を目指す。

- ・生き活きとした生活を送られるよう支援する。
- ・体力低下の防止、健康維持に努める。

②内容

食 事：ゆっくり・美味しく、一人ひとりにあった支援をモットーに個別配慮をおこなった。

入 浴：グループ毎の入浴で、個々のペースにあわせた誘導、支援をする。支援しながら洗髪、洗体の自立を目指す。また怪我や皮膚疾患等無いか、全身のチェックを行った。

排 泄：個々に応じた排泄誘導、確認による健康状態の把握に努めた。

- ・排泄後の支援（ちり紙を渡す）を行う。
- ・朝食後、昼食後に全員排便誘導を行い習慣付を目指した。
- ・排便後、排便確認表に記入した。（医務と連携を取る）

運 動：午前と午後の集い前に、音楽をかけながらウォーキングを行った。

寝 具：週一回日曜日にシーツ交換、また日常的な汚れはその都度交換した。布団乾燥機を使用して毎日2名ずつ布団の乾燥を行った。

- ・必要に応じて失禁のある人には、ラバーシーツを使用。

- ・午睡用にリビングに、季節に応じてタオルケットや毛布を共有の物として使用した。

衣 類：年2回の衣替え・適宜補充。季節に応じた衣類調整等の気配りをし衣替えの時期は、ケース担当に声掛けをして交換補充を行った。身だしなみに気をつけた。ミシン補修できる物に付いては適宜補修を行った。ソックス専用のケースを倉庫に保管している。

- ・他利用者により破られた衣類・靴の弁償を2か月に1回行った。

日用品：在庫確認を行い、倉庫から常備した。

手洗い：飲食前・外出後・クラブ活動後、手を添えシャボネットを泡立てる等、個別支援により確実な手洗いを行った。手指乾燥機による確実な拭き取り。食事前と間食前のジェ。

顔拭き：毎朝、朝食後に濡れタオルでの顔拭きを行った。

髭剃り：朝食後、個人用の電気カミソリでの髭剃り実施。(土、日カミソリの掃除充電)

散 髪：定期的に実施。個々にあった髪型にする。

薬付け：入浴後、処置記録表を元に確実に実施。個別に、点眼薬・皮膚疾患への薬の塗布を、食後や決まった時間に行った。すり傷、切り傷等の消毒や軟膏塗布については、その利用者の状況に応じて医務との連携を取り処置をした。

冬の乾燥時期は髭剃り後にワセリンを塗布し唇の乾燥対策を行ったり、靴下を履く前に足裏へワセリンまたはニベアを塗布した。

服 薬：3食共に服薬は食堂で食後に行った。与薬確認を確実にし誤薬には注意した。

検 温：起床時と午後の集い前に検温を行った。感染症時には検温時間を増やし、1日3回とした。

その他：洗面室のソファは撤去し、木の長いすに更新した。

③経過、課題

- ・利用者の健康状態の観察が年々必要になっている。身体の変調や怪我にも注意し、日頃の様子観察をし、細かいことでも医務に相談を行い、迅速な対応を行っていく。
- ・着衣のみだれ、衣類の補修、補充、季節に合った衣類などを迅速に対応し身だしなみに気をつけ快適な生活を送る。
- ・個人の衣類棚も定期的に確認し整理整頓する。
- ・生活環境を清潔にし感染症を発症させないように掃除を徹底する。

2) 口腔ケア

①目的：口腔衛生を保ち、歯周病を予防し健康な生活につなげる。

②内容：毎食後の歯磨き実施。

- ・適時、歯ブラシの交換。
- ・平日に毎日2名ずつ、口腔ケアを行い歯周病防止に努めた。また口腔チェックシートに記録を行い、毎月看護課に報告した。
- ・歯ブラシは、朝食、昼食後は滅菌消毒器で消毒、夕食後はピューラックス薄め液で消毒殺菌を行った。
- ・昼食後の歯磨き時には全員コンクールを使用し、ブラッシングを行った。

③経過、課題

- ・利用者の口腔状態に変わった事があれば看護に報告、情報を共有し歯科受診を行った。

3) 活動

①目的：利用者が安定して活動しやすい場と活動プログラムを充実させ、確実に活動できる環境を提供する。

- ・スムーズに活動できるよう日中活動課と連絡を行い準備や配慮を行う。
- ・個々に合ったことを楽しみながら行い、安定を図る。
- ・バスドライブやいつもとは違った間食を摂ることで、クラブ活動への意欲に繋げる。

②内容：月曜日～金曜日の午前

- ・きのこクラブ …… ホダ木の移動、植菌、水槽浸け、水槽上げ、枝木の整理。
遊歩道ウォーキング
(雨天、プレイルーム雑巾掛け、冬季は室内ウォーキング)
- ・生き生きクラブ…… 室内・学園周りのウォーキング (雨天、冬季は室内ウォーキング)
顔拭きタオル畳み
- ・バスドライブと外注の間食 (7月、8月、10月、3月)
- ・外注の間食。(11月、12月、1月、2月)

③経過、課題

- ・きのこクラブは参加利用者を絞った。原木の運搬を中心に行い、水槽上げ、天地返しを行い、設置場所に原木をふせ込んだ。冬季はハウス内にて植菌作業を行った。
- ・午後からの活動としては、ウォーキング中心の取り組みを行った。親の会や文化祭に向け、月単位で作品作り等の行程を考えて行きたい。
- ・生き生きクラブはタオル畳みとウォーキングを中心とした活動を行った。
- ・年間を通して、毎月末のバスドライブは難しいと思われるが定期的に行い、利用者の慰労、クラブ活動への意欲に繋げていきたい。

4) 環境

①目的：怪我のない安全な空間を提供する。利用者が楽しみを持って生活出来る環境作り。

- ・破損した物の修繕と交換。

②内容：破壊行為等による破損は営繕係と協力をして早めに対処を行った。

- ・劣化が目立ち怪我をする恐れのあるベッドを更新した。
- ・劣化がすすんだ窓枠を更新した。

③経過、課題

- ・破損箇所特に壁穴、壁紙については随時修繕し営繕との協力をしてスピーディーな修繕を行えたと思う。
- ・今後も利用者が破壊に至らない支援を前提に不測の事態には早い修繕が出来るよう再度必要物品の補充を行っていく。

5) 清掃

①目的：掃除の徹底による安全、清潔な生活空間の確保。感染症予防。

②内容：専用の床用モップ10枚、窓・ノブ等用クロス4枚を使用。

- ・床拭き (午前、午後、準夜帯) …… オキシヴィルファイブ
- ・(感染症発生時…… ピューラックス)
- ・居室床拭き、ドアノブ拭き、窓拭き (一日1回、随時)
- ・居室掃除 (随時)
- ・トイレ掃除 (一日3回随時)

③経過、課題

- ・内容について、毎日滞りなく行えた。

- ・ 蟻虫や感染症が発生した際も感染者の拡大を防ぐ事が出来た。
- ・ 居室窓や棚の中が清掃が行き届いていない所があり、今後の課題とする。

6) ブログ

- ①目的：ホームページのブログを通じて利用者の生活や外出した様子を、家族や各方面に発信する。
- ②内容：行事や日課、日々の生活風景等を毎日紹介した。
- ③経過・課題
 - ・ 撮影対象者の一ヶ月ごとの予定表を作成した。一ヶ月で全員が紹介出来るよう配慮している。予定表上の撮影風景は変更してもよく、撮影対象者は入れ替えてもよい。
 - ・ レインボーグループの利用者は一定の方向を見たり動きを止める事が難しい面もあるので全体写真を撮る時は少し多めに写真を撮り、その中から写りの良い物を選んでいる。
 - ・ 今後も写真を撮る際は身だしなみなどに注意しながら撮影していきたい。
 - ・ 9 / 10 ~ 10 / 25 蟻虫感染予防のためレインボー全員個室対応となり、この間ブログは中断した。

7) 日課

- ①目的：日課を変更毎に更新を行った。
 - ・ 確実、かつスムーズに支援する為の日課表の作成を心掛けた。
- ②内容：一日の流れと勤務形態を分かりやすく記載した。
 - ・ 利用者の動きや日課の流れを確認して記載した。
 - ・ ミスの起こらない支援ができるよう、各マニュアルの変更と徹底化を行った。
 - ・ 利用者の状況に応じて変更を行った。
 - ・ 無理のない日課を組むようにした。
- ③経過・課題：定期的に日課表の見直しを行った。今後も行っていく。

8) 作品作り

- ①目的：少人数で作品を作ることで、利用者の新たな側面を確認し今後の生活や活動の向上に繋げていく。
 - ・ 作品作りを通して利用者がどんな作業ができるかを探し出す。
 - ・ できあがった作品を見ることで季節を感じたり、気分転換の一助にする。
 - ・ 文化祭で展示し発表の場とする。
- ②内容：文化祭に向けて落ち葉をスタンプとして使用した絵を作成した。
年賀式に向けて、ねずみのマスコット作りと、塗り絵を行った。
- ③経過・課題
 - ・ 積極的に作品作りをしようとする利用者もおり、楽しそうに参加していた。
 - ・ 取りかかりが遅くなったが、職員同士の連携もあり仕上げる事ができた。
 - ・ 具体的な計画書を作成しないまま作品が完成した。
 - ・ 年間を通して、取り組める物を作成すれば良かったと感じた。

9) 日誌

- ①目的：確実な支援と利用者の様子把握のため、日誌を作成する。
- ②内容：1日の主な予定は日誌担当者が事前に記載し、毎日の記載はその日のリーダーが行う。
 - ・ 勤務形態と1日の流れ（活動、受診、外出、短期入所者など）を分かりやすく記載する。
 - ・ 9時と16時の在園数は確実に記載する。

- ・利用者の様子は特記事項を記載する。

③経過・課題：

- ・7月より紙の日誌を廃止し、一太郎ファイルに記録するようになった。
- ・利用者の様子はシンプルケースに記載した事項から特記事項をコピーする。
- ・日誌様式の見直しを行った。今後もより良い様式へ見直しを行っていく。
- ・クラブ活動とグループ活動は実施後にリーダーが具体的な活動内容を記載し、外出や受診の時間も変更をすることを確認した。

3 行事

1) 誕生者外出

①目的：誕生日を迎えた事を感じてもらう。

- ・誕生日に担当職員と外出やお祝い会を行い、親睦を深めてお祝いをする。

②内容：誕生日の日（もしくは近日）に午後から外出をする。

外出日	年齢	場所
4月3日	47歳	活動センター宿泊室
4月13日	55歳	高谷山、活動センター宿泊室
4月26日	44歳	高谷山、コンビニ
6月17日	42歳	活動センター職員室、活動センター宿泊室
6月30日	51歳	CCプラザ、活動センター宿泊室
7月27日	52歳	CCプラザ、レストランV
8月5日	55歳	CCプラザ、ゲーム、喫茶店
8月8日	45歳	CCプラザ、レストランV
8月31日	51歳	CCプラザ、レストランV
9月28日	57歳	生活棟居室
10月9日	45歳	生活棟居室
11月4日	51歳	喫茶「フルフル」
11月11日	49歳	ナガタニ・三次ワイナリー喫茶店
11月25日	48歳	三次運動公園、コンビニ
11月26日	54歳	三次運動公園、コンビニ
11月30日	53歳	活動センター娯楽室
12月13日	47歳	活動センター娯楽室
12月25日	34歳	フタバ三次店、コンビニ、活動センター娯楽室
1月19日	51歳	コンビニ、活動センター娯楽室
2月10日	33歳	コンビニ・風土記の丘
2月14日	42歳	三次運動公園、コンビニ

③経過、課題

- ・誕生日である事を理解してもらい、年齢や興味など、個々の利用者に合った外出やお祝い会を計画していく事が課題である。

2) レクリエーション

①目的：季節感のあるレクリエーションを提供する。

②内容：レインボー会議のある日の午後に、季節に応じたレクリエーションを行う。

実施日	行事名	場所	内容
4月10日	お花見会	三次運動公園	散歩
8月9日	夏祭り	センタープレイルーム	スイカ割りゲーム
12月12日	忘年会	センタープレイルーム	カラオケ、ゲーム
1月8日	新年会	センタープレイルーム	新年の抱負、福笑い
2月7日	お楽しみ会	センタープレイルーム	ピニャータ割り

③経過、課題

- ・予定通りに実施することができ、季節を感じて頂ける事が出来たと思う。

3) バスドライブ・バスハイキング

①目的：ドライブすることによって気分転換を図る。

- ・普段と違う場所での散策を楽しむ。

②内容：レインボー会議のある日の午後にマイクロバスでドライブ。

- ・昼食のお弁当や間食を持って行き、山や公園で食べたり、散歩や遊具で楽しんでもらった。

実施日	行き先	参加人数
5月13日	風土記の丘	21名
6月5日	高谷山展望台	21名
7月3日	道の駅「北の関宿」	21名
11月8日	灰塚ダム記念公園	20名
3月6日	県立みよし公園	16名

③経過、課題

- ・11月は体調不良者、3月は花粉症等で、全員で参加出来なかったが、その他の月については全員参加で実施する事が出来た。また天候により目的地を柔軟に変更して実施した。
- ・散歩や遊具で楽しむ時間をしっかり取り、のんびりとした時間を過ごせてもらえた。
- ・利用者は特別の間食や出掛ける事自体を毎回楽しみにしていた。
- ・季節によっては感染症対策の為、無理のない外出を計画した。
- ・9月にもバスドライブを実施する予定であったが、感染症発生の為、中止した。

4) 外出

①目的

カフェ外出

- ・外出することにより気分転換をはかり、通常生活の励みにする。

日帰り旅行

- ・好きな昼食を食べ、一日をゆっくりと過ごし、気分転換を図る。
- ・色々な経験の場を提供する。
- ・食べること以外の楽しい体験をしてもらう。

②内容

- ・カフェ外出（午後からの外出）

- ・日帰り旅行（一日を通して楽しいことを体験してもらう外出）

実施日	内 容
4月17日	日帰り旅行：千光寺、向島
5月22日	日帰り旅行：由志園、ジョイフル松江東朝日店
5月28日	カフェ外出：スプレモ
6月4日	カフェ外出：三次ワイナリー喫茶「ヴァイン」
6月20日	カフェ外出：モスバーガー
6月26日	カフェ外出：遊々ランド、コンビニエンスストア
7月10日	カフェ外出：CCプラザ喫茶「ヴィ」
7月18日	カフェ外出：もののけミュージアム、ファミリーマート
7月25日	日帰り旅行：イオンモール出雲、しまね花の郷
8月19日	日帰り旅行：東広島、カフェリエ「八天堂」
8月27日	カフェ外出：もののけミュージアム、ファミリーマート
9月10日	カフェ外出：モスバーガー（中止）
9月12日	日帰り旅行：出雲大社、コメダ珈琲（中止）
10月29日	カフェ外出：セブンイレブン、三次公園
11月20日	カフェ外出：江の川カヌー公園、セブンイレブン
3月24日	カフェ外出：三和千本桜、コンビニ

③経過、課題

- ・利用者の方は、外出をととても楽しまれていた。
- ・希望に添った旅行が出来るように計画を立てたが、参加メンバー全員が出来るというのは難しい所もあった。
- ・体調不良者があったが、メンバーや場所を変更することでスムーズに行えた。
- ・感染症のため、予定していた外出が2度中止になった。

5) レインボーレクリエーション

令和元年9月29日（日）利用者21名 家族参加なし

①目的：利用者、ご家族、職員の親睦を深め、楽しい時間を一緒に過ごす。

②場所：療育センター

④経過・課題

- ・蟻虫発生のため中止となった。

4 グループ会議

①目的：利用者のQOLを高めるため、日課、環境、各活動について課題を定義検討し、取り組みについての意識統一を図る。

- ・会議の前の月のサービス担当者会議で決まった個別の取り組みについて担当者より報告を行う。
- ・ケースカンファレンスを行い支援の方法、見直しを行う。

②内容

4月10日 ・運営会議・支援部課長会議・支援部長・虐待防止委員会・危機管理委員会

- ・ サービス向上委員会・人権委員会・生活・口腔ケア・ボランティア
- ・ ケースカンファレンス（6名）
- 5月13日 ・ 運営会議・支援部課長会議・支援部長・虐待防止委員会・危機管理委員会
- ・ 日中活動課・サービス向上委員会・人権委員会・生活・日課・清掃・日誌・HP予定
- ・ ケースカンファレンス（4名）・4月サービス担当者会議から（3名）
- 6月5日 ・ 運営会議・支援部課長会議・支援部長・虐待防止委員会・危機管理委員会
- ・ サービス向上委員会・人権委員会・生活・口腔ケア・清掃
- ・ ケースカンファレンス（3名）・5月サービス担当者会議から（4名）
- 7月3日 ・ 運営会議・支援部課長会議・支援部長・虐待防止委員会・危機管理委員会
- ・ 人権委員会・口腔ケア・環境・日課・活動・日誌・ケースカンファレンス（7名）
- ・ 6月サービス担当者会議から（1名）
- 8月9日 ・ 運営会議・支援部課長会議・支援部長・虐待防止委員会・危機管理委員会
- ・ 地域交流クラブ・活動・ケースカンファレンス（8名）
- ・ 7月サービス担当者会議から（4名）
- 9月9日 ・ 運営会議・支援部課長会議・支援部長・虐待防止委員会・危機管理委員会
- ・ サービス向上委員会・レインボーレク・生活・地域交流クラブ・環境・活動
- ・ ケースカンファレンス（2名）・8月サービス担当者会議から（2名）
- ・ R-1飲用のマニュアル
- 11月8日 ・ 運営会議・支援部課長会議・虐待防止委員会・危機管理委員会・サービス向上委員会
- ・ 生活・清掃・活動・ケースカンファレンス（4名）
- ・ 9月サービス担当者会議から（2名）・環境美化係
- 12月12日 ・ 運営会議・支援部課長会議・虐待防止委員会・危機管理委員会・サービス向上委員会
- ・ 生活・環境・清掃・作品作り・活動・日誌・ケースカンファレンス（1名）
- ・ 10月サービス担当者会議から（4名）・短期利用者・環境美化係
- 1月8日 ・ 運営会議・支援部課長会議・虐待防止委員会・危機管理委員会・支援部長
- ・ サービス向上委員会・人権委員会・生活・活動・日誌・HP予定
- ・ ケースカンファレンス（2名）・11月サービス担当者会議から（3名）・環境美化係
- 2月7日 ・ 運営会議・支援部課長会議・虐待防止委員会・危機管理委員会・人権委員会
- ・ 生活・清掃・活動・ケースカンファレンス（2名）
- ・ 1月サービス担当者会議から（4名）・食事の席と順番・環境美化係
- 3月7日 ・ 運営会議・支援部課長会議・虐待防止委員会・危機管理委員会から・支援部長
- ・ 生活・サービス向上委員会・環境・ケースカンファレンス（7名）
- ・ 2月サービス担当者会議から（1名）・環境美化係・日中利用者のトイレ誘導
- ・ 検温の時間・クラブ活動・食事の順番

③経過、課題

- ・ 会議内でのケースカンファレンスでは、不適切な行動、新たな取り組みがある利用者を中心とし、支援内容の確認を行った。個別支援会議を行った利用者の取り組みについて、担当職員から報告の時間を設けた。
- ・ 職員が意見を出せるように司会を務めたつもりだが、意見の発信が少なかった。議題によっては、活発に意見が出て討論ができた会議もあった。意見を出しやすい雰囲気作りが必要。

- ・グループ職員へ議題の提出を求めたが、殆ど記入が無かった。
- ・夜勤入り、明け職員の議題の収集に課題が残った。
- ・会議録作成職員に、会議終了後に作成してもらいその日のうちに決裁周知をすることで、会議に参加出来なかった職員への周知が早くなった。

5 まとめ

- ・クラブ活動としては月～金曜日の午前に行った。午後からはウォーキングが中心できのこクラブ、いきいきクラブと分かれて山の遊歩道、学園周りと歩いた。
- ・夏の暑い時期と冬の寒い時期は屋外での活動は控え運動不足にならないように室内を歩いた。
- ・服薬調整のため精神科へ2回の入院をされた方がいた。
- ・9月9日に利用者1名の便の中から蟯虫が発見されレインボー他19名（1名入院中）全員が個室対応となった。その後、もう1名の便からも蟯虫が確認された。利用者、職員とも期間を空け、コンバントリン錠2回予防投与となり、10月25日終息となった。この期間利用者さんには、個室での生活を余儀なくされ、大変しんどい思いをされたと思う。
- ・インフルエンザには感染する事はなかった。
- ・加齢と共に体力低下も早いと思われ、他傷、自傷等での怪我も多く今後も様子観察、見守り支援や個別対応が必要になってくる。
- ・来年度も、利用者が安心して快適に過ごせる環境作りを行っていく。
- ・一人ひとりに焦点をあて、個別対応を考え、健康に過ごしてもらえるよう看護とも連携して取り組んでいきたい。

（久保宏子、堂西美保、若床まゆみ、中岡健太郎、見土 唯、藤本将太郎、
掛川陽介、藤井佑紀、河合淳雄、毛木章義）

4 はなまるグループ

1 グループ目標

- ・利用者の個性や行動を理解し、自己選択、自己決定を尊重し、健康で豊かな生活を支援する。
- ・清潔で安心して生活して頂ける個別配慮された環境を提供する。

2 生活・衛生

1) 生活全般

①目的：基本的生活習慣の確立を目指す。

- ・活き活きとした生活を送られるよう支援する。
- ・体力低下の防止、健康維持に努める。

②内容

食 事：ゆっくり・美味しく、一人ひとりにあった支援をモットーに個別配慮をおこなった。

入 浴：グループ毎の入浴になり、個々のペースにあわせた誘導、支援をする。支援しながら洗髪、洗体の自立を目指す。また怪我や皮膚疾患等無いか、全身のチェックを行った。

排 泄：個々に応じた排泄誘導、確認による健康状態の把握に努めた。

- ・排便後、排便確認表に記入した。

寝 具：週一回 木曜日にシーツ交換、年2回の敷き布団交換。個人の健康状態にあった。寝具へ変更。必要に応じて失禁のある人には、ラバーシーツを使用

衣 類：適宜補充。季節に応じた衣類調整等の気配りをし衣替えの時期は、ケース担当に声掛けを

して交換補充を行った。身だしなみに気をつけた。

- ・他利用者により破られた衣類・靴の弁償を6か月に1回行った。

日用品：在庫確認による常備。早めの発注を心掛けた。

掃 除：木曜日のシーツ交換後に掃除の時間を準備。

掃除の徹底による安全、清潔な生活空間の確保。感染症予防。

- ・専用の床用モップ10枚、窓・ノブ等用クロス5枚。
- ・床拭き（午前、午後、夜間）… オキシヴィルファイブ
（感染症発症時）… ピューラックス
- ・居室床拭き、ドアノブ拭き、窓拭き（一日2回、随時）
- ・トイレ掃除（一日3回随時）

手洗い：飲食前・外出後・クラブ活動後、手を添えシャボネットを泡立てる等、個別支援により確実な手洗いを行った。手指乾燥機による確実な拭き取り。食事前と間食前の消毒。

顔拭き：毎朝、朝食後に濡れタオルでの顔拭きを行った。

髭剃り：起床後、個人用の電気シェーバーでの髭剃り実施。

散 髪：定期的に実施。個々にあった髪型にする。

薬付け：入浴後、処置記録表を元に確実に実施。個別に、点眼薬・皮膚疾患への薬の塗布を、食後や決まった時間に行った。すり傷、切り傷等の消毒や軟膏塗布については、その利用者の状況に応じて看護との連携を取り処置をした。

冬の乾燥時期は入浴後に馬油を全身に塗り乾燥対策を行った。

服 薬：3食共に服薬は食堂で食後に行った。与薬確認を確実にし誤薬には注意した。

検 温：起床時と午後の集い前に検温を行った。感染症時には検温時間を増やし、個室対応者用の検温表を作成した。

③経過、課題

- ・利用者の健康状態の観察が年々必要になっている。身体の変調等、日頃の様子観察をし、看護との連携を取る。細かいことでも看護に相談を行い、迅速な対応を行っていく。
- ・着衣のみだれ、衣類の補修、補充、季節に合った衣類などを迅速に対応し身だしなみに気をつけ快適な生活を送る。
- ・生活環境を清潔にし感染症を発症させないように掃除を徹底する。

3 環境改善

①目 標：快適かつ個別配慮された生活環境の整備を行う。建物、建具の損傷、改善に努め、補修、交換、修繕、改良を行う。

②内 容：生活環境の清潔の維持

- ・毎日の清掃（廊下を3回、窓やドアノブを2回、居室を1回）をクロスやモップを使用して行う。随時、必要に応じて普段行き届かない所の掃除や物品の整理を行う。
- ・不要になった物は処分したり移動させて、整理整頓された使いやすい環境を考えていった。

③まとめ：はなまるグループでは個人持ちの物品が多く、居室掃除などは細かい所まで行き届いていないので改善が必要。今年度は建物や物品の破損や損傷は少なかった。

4 口腔ケア

①目的：感染予防と対応

- ・健康維持

②内容：入浴後も含め指示された軟膏塗布・消毒を看護のチェック表に基づき確実に行った。

- ・個々の健康状態の把握に努め、看護との連携を深め、迅速な処置、必要な受診を速やかに実行できる体制作りに努めた。
- ・体調不良の早期発見の為、13時00分、19時00分に変更した。
- ・午前、午後の活動後や食事前の手洗いうがいの実施、手指消毒を徹底した。
- ・毎月1回体組成測定を行い、健康管理に努めた。
- ・歯磨き支援として毎月2回、24名全員行い、口腔内のチェックを実施した。チェック表を看護職員と共有する事で速やかに歯科受診の検討をしてもらった。
- ・毎週日曜日に爪切り、耳チェックを実施した。
- ・夕食後の歯磨き終了後、全員の歯ブラシをピューラックス液に浸け、消毒を行った。
- ・昼食後の歯磨きはコンクールを使用し全員仕上げ磨きを行った。
- ・歯ブラシの毛先が開いたら交換を行った。
- ・床拭きやドアノブ等をオキシヴィルファイヴを使用し1日2回行い、感染予防を徹底した。
- ・季節の変わり目には、衣類整理、衣替えを行った。
- ・トイレ倉庫、洗面所下の戸棚の整理を行った。
- ・トイレ掃除の際に、手指乾燥機の掃除を行った。
- ・消耗品の補充や更新を行った。

③まとめ：入浴後の軟膏塗布はチェック表を使用し確実に行った。

- ・体調の悪い人には早めに対応し配慮できたが、自分から体調の不調を訴えることが難しい方に対しては日頃の様子観察から把握した。
- ・手洗いうがい、手指消毒を徹底して行ったことで、体調を崩すケースは少なかった。
- ・毎週日曜日の爪切り、耳チェック、土曜日の口腔ケアをすることで、衛生と健康状態の把握の1つになった。
- ・1人につき月2回、口腔状態の観察で、虫歯の発見や、口内炎の発見、看護と情報を共有し早めに歯科受診が出来るようになった。
- ・仕上げ磨きの回数を増やすことで出血など口腔内でのトラブルも減少している。
- ・今後も食事や睡眠時間、口腔ケアに注意し、毎日の生活が精神的、肉体的に安定した状態で規則正しい生活で過ごして頂けるように努めたい。

5 処遇改善

①目的：日課の見直し。業務の省力化、効率化。

- ・個別の取り組み等、日課の中に取り込み実施できるようにする。
- ・情報の交換。意見の集約。

②内容：施設内メールでの意見収集、意見交換、提案。

③まとめ：日課や個別の取り組み、利用者対応などの問題点について意見集約。充実した生活を送って頂く為に、より積極的な情報収集や意見交換を行い、適切な支援に繋がる改善案を模索、実行して行きたい。

6 クラブ活動

①目的：活動を通して日課に添った安定した生活の提供と楽しみや、やりがいを感じて頂く。

②内容

1) クリーンクラブ：6名

衣類たたみ、タオルたたみ、食堂前廊下掃除、脱衣室の床拭き、生活棟の床拭きと窓ふき
軍手洗い、軍手干し、軍手を束ねる、洗濯室の掃除、乾燥機の掃除

2) リサイクルクラブ：5名

缶リサイクル：空き缶の収集、分別、缶潰し、売却、薪割り、薪作り

紙リサイクル：新聞と広告の分別、段ボールの整理、売却

F O X売り上げ金額と紙資源とアルミ缶売却の合計金額…325,370円

4月	81,600円	5月	41,000円	6月	42,800円	7月	13,000円
8月	17,900円	10月	39,350円	11月	23,000円	1月	66,720円

3) 木工クラブ：6名

日中活動係の指示を受け、前年度に引き続き「市松テーブル」「手提げプランター」「ミニチェア」の部品を製作。娯楽室の部材（腰壁、箱形椅子）作成、指示板の作成を行う。

前年度に引き続き木材のヤスリ掛け、磨き洗い、色塗りとそれぞれが出来る事を役割分担し、協力して作業を行った。安全面に配慮しながら、ネジ留めなどの作業も随時行った。

4) 野菜クラブ：4名

種まき、移植、畑作り、収穫、水やり、草抜き、倒木の整理、面積の広い畑の区分け

まとめ：職員を各クラブ専属で配置を行った。各所属1名ずつの職員配置となっていたが、しっかりと分担して作業を行うことができた。また、作業量によっては活動グループを合同で行ったりと、臨機応変な対応で作業効率を上げる事も出来た。

木工クラブでは、ヘリンボーンテーブルなど新たな作品の作成を行った。一人一人が分担をし、ヤスリ掛け、色塗り作業等、利用者さんの得意分野を活かした活動が提供出来た。

リサイクルクラブではアルミ缶潰し、薪作りを行った。F O Xで販売も行い、地域の方からも好評を頂いた。今後も継続して取り組み、地域交流の一つとしても継続的に実施していきたい。

課題：日中活動課と話し合いを行いながら作業内容の提案を行っていく。

7 午後活動

①目的 活動を行う事で生活の楽しみ、向上、達成感を味わってもらう。

②内容 業者からの受注活動（コップのシール貼り）
制作活動（学園周辺のプランター制作）

③まとめ：期間限定の作業ではあったが、業者より依頼されたコップにシールを貼る内職作業を行った。また毎週水曜日の午後からはセンター二階を使用し、学園で使用するプランターの木枠の制作を行った。

内容としては利用者さんの得意分野に分かれ、木材カット、木工磨き、色塗り作業、組み立て作業を行う。木材から加工し、徐々に作品が完成する事によって達成感を感じ、楽しみを持つことが出来たのではないかと思います。今後も午後日課活動として利用者さんの得意なことを好きなことを通じて作業を内容を考えて取り組んで行きたい。

8 運動

①目的 身体を動かすことで、体力の向上、現状維持を目指す。

②内容 グランドゴルフ 学園周り、遊歩道のウォーキング、プール外出

③まとめ グランドゴルフでは月に4回のペースで行い、しっかりと身体を動かして頂いた。また布野のグランドを使用し、グランドゴルフ大会を実施した。ウォーキングについては午後から学園周りを5周～10周行った。前年度は学園周りを3周程度しか歩いていなかったもので、以前に比べ運動量は増加したと思う。利用者さんも徐々に周が増えることにも慣れてきて、一部の利用者さんを除きほぼ全員が10周歩くことが出来るようになった。今後も継続して行っていききたいと思う。

(プール外出) 1班～5班、竹岡さんが必ず参加の特別班をつくり、8月から布野にある福祉センターで温水プールに入り、体を動かす。11月まで月2回程度班ごとに外出した。ただ、プール外出で外出したにも関わらず、プールに入らない人がいた為、目的を改めて考え、今度の対応を見直す必要がある。

9 行事

1) グループ行事

①目標：季節に応じた行事やレクリエーションを提供し、楽しみのある生活を送ってもらう。

②内容

月	日	行事名	場所
4	4	花見会	君田遊園
5	2	在園者バスハイク	吉田グリーンシャワーの森
5	10	バスドライブ	せら夢公園
6	3	バスドライブ	道の駅北の関宿
7	5	バスドライブ	風土記の丘
8	6	夏祭り	学園プレイルーム
8	13	在園者バスハイク	ジミーカーター・タイニー
9	6	バスドライブ	せら夢公園
11	3	藤兼祭り	藤兼神社及び藤兼地区
11	11	バスドライブ	亀の丸果樹生産組合
12	4	グランドゴルフ大会	布野運動公園
12	10	忘年会	学園プレイルーム
1	14	新年会	学園プレイルーム
2	5	レクレーション	学園プレイルーム
2	14	バレンタインデー	大作業室
2	24	還暦お祝い会	娯楽室・大作業室
3	4	バスドライブ	たたらば壺番館

③まとめ

- ・今年度より行事を増やし、楽しみに繋げた。初めて体験する行事もあったが、喜んでもらえた。
- ・冬期や感染症流行時期は外に出る機会が無く、室内行事を行った。
- ・外泊期間中は、在園者の方にも楽しみを提供出来たと思う。

2) 外出（お楽しみ外出／日帰り旅行）

①目的

- ・個々のニーズに応じた行事を計画実施し、日課への安定した参加に繋げる。

②内容

(日帰り旅行)

実 施 日	参加人数	場 所
4月12日	2名	啓文社コア福山西、ジョイフル
5月17日	3名	島根ワイナリー ゆめタウン出雲店
5月31日	2名	宮島
6月18日	3名	広島空港、東広島市内
7月30日	2名	島根県大田市 イオンタウン大田
8月1日	2名	バイキングかたおか松江店、カラコロ工房
9月19日	2名	東広島方面、上野原牧場カドーレ
10月4日	3名	くら寿司 道の駅湖畔の里
11月19日	2名	東広島市フジグラン、ジョイフル
3月29日	2名	東広島お宝買取団

(お楽しみ外出)

実 施 日	参加人数	場 所
4月9日	2名	サングリーン
5月7日	2名	ミーツ、フタバ図書、カラオケ、マクドナルド
6月11日	3名	サングリーン、マクドナルド
7月9日	2名	道の駅、赤名高原
8月7日	3名	サングリーン、川西郷の駅いつわの里
9月10日	2名	世羅町、マルシェ
10月8日	2名	三次市 (CCプラザ・マクドナルド)
11月26日	3名	フタバ図書、ダイソー、ココス (三次店)
12月21日	2名	還暦外出、21番館 (マイクアンドシェリー)

③まとめ

- ・出来るだけ利用者の意見を尊重し個人に合う場所の設定に努めた。
- ・昨年度の報告書の反省をいかし、利用者さん同士の関係も考えながら、振り分けをした。

3) はなまるレクリエーション

令和元年10月12日 (土) 利用者24名参加

①目的：利用者、ご家族、職員がレクリエーションを通じて親睦を図る。

②場所：ともえ学園・センタープレイルーム

③内容

午前中は椅子作り (仕上げ)、午後からは椅子作り (組み立て) を行った

④経過・課題

台風接近の為、内容を変更、御家族の方へ参加を遠慮してもらう予定だったが、予定通り行う事

が出来た。J Rで来園予定の御家族の方は予定時間より遅れて来られた。

10 グループ会議

①目的：利用者の生活向上と充実したサービスの提供を目指し、環境・個別処遇・各活動について課題を提起検討する。

- ・ケースカンファレンスを行い、支援についての意識統一と利用者に対する理解を深める。
- ・各部署との意見交換、情報交換、協議。

②内容

- 4月 各委員会、全体係、事故報告の対応について、ケースカンファレンス、その他
- 5月 各委員会、全体係、日課について、ケースカンファレンス、その他
- 6月 各委員会、全体係、各部署日誌について、ケースカンファレンス、その他
- 7月 各委員会、全体係、朝礼について、ケースカンファレンス、その他
- 8月 各委員会、全体係、事故報告の対応について、ケースカンファレンス、その他
- 9月 各委員会、全体係、レクについて、クラブ活動、ケースカンファレンス、その他
- 10月 はなまるレクリエーションの為、会議は中止
- 11月 防災について、創造活動、クラブ活動、ケースカンファレンス、その他
- 12月 各委員会、全体係、虐待事例について、創造活動、ケースカンファレンス、その他
- 1月 各委員会、全体係、感染症について、ケースカンファレンス、その他
- 2月 各委員会、全体係、個別支援会議について、ケースカンファレンス、その他
- 3月 各委員会、全体係、下膳方法についてケースカンファレンス、その他

③経過・課題

- ・今年度も各委員会からの発信による議題が多く挙げられ、虐待防止や人権について考える時間が増えたが、意見を出す人、出さない人がはっきりした。
- ・クラブ活動での活動内容等、パワーポイントを使用して説明をしてもらうことで、情報の把握などがスムーズに行えた。
- ・参加者が積極的に発言できるような雰囲気作りなど、進行役としてのスキルアップを図る必要があるだと感じている。
- ・会議の進め方として事前の準備、意見の徴収を行うことで会議の時間を有効に使うことができた。

11 まとめ

- ・今年度は3名の職員の異動があり、6月には新規採用の職員、また12月で退職される職員もいた。利用者の方への影響もさほどなく、穏やかに過ごせている日が多かった。
- ・午前の活動は日中活動課主導の元いろいろな新しい取り組みなどを行い、利用者の可能性見出す活動になったクラブもあった。活動は利用者・内容共に定着化出来てきている。
- ・午後の活動においては、ウォーキング等の運動を取り入れることが多かった。ウォーキング量は前年度よりも増えた。
- ・今年度は、手洗い、うがい、マスクの着用など予防策を講じた効果もあり、インフルエンザ感染者が発生しても広がることは無かった。今後も感染症の対応と対策を検討していく。
- ・会議に利用者さんの要望を上げて話し合うようにした。要望を話しあったことで改善されたもの難しいものがあった。

(福永真也、高場修治、渡邊 武、竹間和輝、菅原献司、今田弘之

5 日中活動

1 目的：活動の企画、運営を行う。

療育センター、学園周辺の清掃、環境整備を行う。

2 内容

- ・学園周辺の草刈り（草刈りを行う）
- ・FOXの管理（作品の販売、清掃）
- ・遊歩道整備と管理（景観も考慮し安全に散歩ができるように倒木の伐採や草刈りを行う）
- ・山の管理（下草や枝木の切り落とし）
- ・日中活動の企画運営

3 まとめ・反省

- ・日中活動はアルミ缶潰しと売却、古紙の売却、薪作り、木工作業、衣類畳み、清掃作業と環境整備（枝木運び）を行った。はなまるグループは昨年同様少人数のグループで活動した。
- ・環境整備では夏季随時草刈り等を行い、遊歩道は間伐作業を進め景観に配慮し整備を進めた。間伐した資源は薪や椎茸の原木また木工作品にするなど日中活動に役立てた。
- ・椎茸栽培や野菜作りなども継続し、乾燥椎茸や野菜はご家族に販売した。
- ・FOX販売は薪を中心に木工作品も販売を継続し昨年度を上回る利用を頂いた。
- ・他のグループはウォーキングを中心としたメニューで晴天時は原木や枝木運びをしてもらったが、個別の配慮が出来ず次年度への課題となった。

（魚見敏満、林 宏典、中野基行）

6 医療

はじめに

利用者が健康的に学園生活を送れ、利用者の生活支援に従事する職員も健康的な日々が送れるよう、毎日の観察やケアを大切に、産業医、嘱託医、近隣病院や時には遠方病院のご協力のもと、利用者、職員の健康管理に努めることが出来た。

1 バイタルサイン、症状の観察

毎日の検温や全身状態の観察に努め、日々、利用者の体調変化に注意しながら、異常の早期発見と重症化予防に努めた。持病を抱える利用者に対しては、各疾患に応じて症状の観察を強化した。自覚症状に乏しく症状が表面化されにくいケースも多くみられるため、看護師を含める支援者側が、日頃から僅かな体調変化に注意を払い健康管理を行った。

2 受診判断、受診引率、入退院調整、産業医、嘱託医との連携

突発的な病気や怪我も多く見られたが、その都度、医師への報告や各医療機関への受診などの対応を速やかに判断した。定期受診に関しては、日頃の症状を常に把握しながら、受診引率と次回受診日の調整を図った。精神科、整形外科への入退院が計4回あり医療機関とも連携を図りながら、ご家族への連絡や入退院時の引率、調整を行った。

3 外傷時、病気静養時の対応

外傷や病気静養時は症状に応じて適切な処置等を判断し実施した。日常生活への支障がみられる場合は日常生活への配慮と指示を行い、利用者が一日でも早く回復するように環境面への配慮も必要であった。

4 スキンケア、フットケア

入浴後は利用者全員を対象として保湿ローションや保湿クリームを塗布し、利用者個々の皮膚症状や季節に応じたスキンケアを実施した。皮膚の乾燥が強い場合など、個々の症状に合わせてスキンケアの見直しや追加を行い、症状の改善を図った。スキンケアに必要な物品の準備や補充を適切に行い、皮膚科への定期受診中の利用者における処方薬（内服、外用）の管理に努めた。統一したスキンケアを提供するため、スキンケアチェック表を常に修正しながら活用した。うおのめ、巻き爪、爪剥ぎ（自傷）、湿疹などの症状が多く見られ、各症状に対して必要なケアを実施し、症状の改善や悪化予防に努めた。

5 口腔ケア、口腔健康管理、歯科受診

毎食後の歯みがき支援、月2回の口腔チェックなど、支援員協力のもと、歯周病、齲蝕、除石などの症状がみられる場合は歯科受診の調整や受診引率を行った。また5月～6月にかけて歯科健診を実施。一年を通して口内炎や義歯の破損が多くみられ、次年度への課題となる。

6 生活習慣病予防一定期健康診断、歯科健診、健康増進、介護予防の実施

<利用者>

4月－採血、検尿、検便（便潜血、微生物、虫卵）BMI、身長、体重（70名）

5月～6月－歯科健診（70名）

6月～7月－胸部レントゲン撮影（70名）

7月－新規入所者健診（1名）

10月～3月－心電図検査（70名）

1月～3月－視力検査（70名、測定不可含む）

毎月－体組成測定（70名）

半年毎－薬物血中濃度採血（34名）

<職員>

5月～2月－生活習慣病予防健診（39名）

4月～3月－深夜業務従事者健診（33名）

6月－34歳以下定期健康診断（9名）

5月、6月－新入職員健診（2名）

5月－2月－アルコール使用障害同定テスト、ニコチン依存度テスト（50名）

その他、療養食（脂質異常症食、肝臓病食など）提供者に対しては、4月の定期健康診断採血結果を指標とし、医師や管理栄養士の指示を得て、半年後に再評価を実施した。

7 肝疾患対策

肝癌後及び慢性B型肝炎を抱える利用者に対して、定期受診、処方薬の管理、体調管理などを行い、再発予防、異常の早期発見に努めた。新規入所者1名とその後家族に対して、B型肝炎抗体検査とワクチン接種の必要性を説明し実施した。

8 難病対策

難病指定疾患を抱える利用者に対して、定期受診、処方薬の管理、体調管理などを行い、再発予防、異常の早期発見に努めた。

9 がん対策

がん疾患後の利用者に対して、定期受診、体調管理などを行い、再発予防、異常の早期発見に努めた。

10 感染症対策－インフルエンザウイルス、ノロウイルス罹患検査

標準予防策の実施と指導

肝炎ウイルス検査の実施とワクチン接種、その他感染症対策

年間を通して標準予防策の実施を徹底し、各種感染症の流行時期にともない、感染症対策を強化した。流行時期における面会、外出、外泊などにはより一層注意を図り、各対策を実施した。広島県感染症、疾病管理センター（ひろしまCDC）からの発信情報を日々把握し、必要な情報の提供と感染症予防に必要な業務内容の変更、指示を行った。

インフルエンザワクチン接種実施状況（11月下旬～12月上旬）

- ・入所利用者（70名）
- ・短期入所利用者（1名）
- ・職員（46名）

B型肝炎抗体検査、ワクチン接種実施状況（随時）

- ・新規入所利用者（1名）
- ・新入職員（3名、抗体判定検査のみ実施者1名含む）

熱中症予防啓発活動（リーフレット掲示、サイボウズ周知等）、6月初旬～9月下旬にかけてWBGT（黒球式熱中症指数計）を各グループと日中活動係へ配布。屋外活動時の利用者、職員の熱中症予防対策に役立て、熱中症を未然に防ぐことが可能であった。

12 自閉症、精神遅滞、統合失調症、発達障害、強度行動障害の治療と看護

数名の利用者の中で、症状が不安定となり、自傷、他傷、破衣行為の悪化が多く見られた。定期受診以外にも担当精神科医へ症状の報告や、臨時での受診なども多く行った。服薬調整や治療方針の変更も多く、その都度、ご家族への説明や受診報告を行い、入院治療が必要と判断された場合は、引率や入退院日の調整等を行った。突発的な怪我也日々見られ、常に適切な処置や受診判断を必要とした。

13 医療安全、医薬品や医療機器管理及びガイドライン作成、実施、評価

医薬品や医療機器の取り扱いの際は、マニュアルに従い細心の注意を図り取り扱うことが出来た。

14 まとめ

今後も利用者、職員が健康的な毎日が送れるよう、医療従事者として健康面への配慮と状況に応じた適切な対応に努める。

（櫻井永子、山岡由佳、伊藤光子）

7 栄養食生活

1 はじめに

利用者に安全な食事を提供するように衛生管理に留意しながら利用者の嗜好の尊重、旬の食材の利用や暦の行事食の取り入れによる季節感のあるメニューの提供、また家庭的な雰囲気が出せるように多彩な強化磁器食器を使用し、個々に応じた食事作りに努めた。また彩りや盛り付け等にも配慮して提供した。

2 栄養量

生活活動強度は「やや低い」を用い、常食の目標量と実質摂取量は次の表のとおりであった。

	目標量	実質摂取量
エネルギー（kcal）	2,330	2,340
たんぱく質（g）	75.0	78.1

脂質	(g)	60.0	62.0
カルシウム	(mg)	650	637
鉄	(mg)	7.5	10.5
ビタミンA	(IU)	3,000	2,602
ビタミンB1	(mg)	1.23	3.43
ビタミンB2	(mg)	1.37	1.24
ビタミンC	(mg)	100	132

3 栄養ケアマネジメントの実施

障害があっても利用者が自立して快適な日常生活を営み、尊厳ある自己実現をめざすためには利用者一人ひとりの栄養健康状態の維持や食生活の質の向上を図ることが不可欠であることから、個別の栄養健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを利用者全員を継続実施し、アセスメント、栄養ケア計画書の作成、実行、3か月毎の再スクリーニング、モニタリングを行い、栄養健康状態の維持や食生活の質の向上に努めた。

4 療養食

糖尿病食・肝臓病食・胃潰瘍食・脂質異常症食・痛風食・腎臓病食を利用者の病状に応じて提供した。今年度は貧血食対象利用者はみられなかった。

5 食事形態

常食・ひと口刻み食・刻み食・ペースト食を利用者の状態に応じて随時変更しながら提供した。

6 真空調理 凍結含浸調理

真空調理：真空調理で汁物の具、煮物等を作成し、少量の調味料で調理、少数の職員でも複雑なメニューを提供できた。

凍結含浸調理：肉や野菜を柔らかくする酵素を使い、見た目は常食と同じ形態でも中まで柔らかく、咀嚼が少なくても食べていただけるように、刻み食・ペースト食に盛りつけも工夫して提供した。

7 誕生日お祝い

利用者誕生日には、お祝いとしてコーヒーゼリー、豆乳プリン、豆乳コーヒープリン、マンゴープリン等デザートを作成し提供した。

8 間食

間食は、全グループ統一して午後に提供した。

月1回月末には、脂質異常症食、糖尿病食提供者等にも提供出来るように食材や調味料を工夫して、手作り間食を提供した。

4月：「二色いちごババロア」 5月：「豆腐レアチーズケーキ」 6月：「サイダー割梅酒ゼリー」 7月：「ミルクムースクラッシュコーヒーゼリー添え」 8月：「ずんだもち」 9月：「南瓜ケーキ」 10月：「大学芋」 11月：「南瓜プリン」 12月：「ぜんざい」 1月：「パンプディング」 2月：「煮りんご入り米粉カップケーキ」 3月：「コーヒープリン」

9 正月料理

元旦昼食に雑煮、元旦から3日昼食は重詰め風にして、お節料理を提供した。

10 その他

3月「弁当及び惣菜の衛生規範について（昭和54年6月29日厚生省通知）」に基づき、食品の細菌検査を受けた。

(未加熱処理のもの(果物、生野菜を含む和え物等)細菌数(生菌数)1,000,000以下/g 適合)
「ポテトサラダ」「おろし和え」「シルバーサラダ」:細菌数(生菌数)3,000以下/g

11 まとめ

今後も、利用者の健康に配慮し、安全で喜ばれる食事の提供に努める。

(後田喜代子)

8 事務

1 目標

- ①事務の正確かつ迅速な処理を行い、学園内外の連絡調整を緊密にし円滑化する。
- ②外来者に対して常に明るく笑顔で接し、適切且つ迅速な応対に心がける。
- ③電話対応では明確な応対に心がけ、速やかにかつ丁寧に対処する。
- ④必要な情報の共有と公開を積極的に行い、円滑な事業の推進に寄与する。
- ⑤OA機器の活用を推進し、業務省力化を図る。

2 内容

①事務

・支援費の請求、窓口での受付、入退所手続き、療育手帳・保険証・重度障害者医療受給者証・自立支援医療受給者証の管理、各種印刷物の作成、行政機関との連絡調整、その他

②庶務

・文書收受・発送、福利厚生、パソコン・プリンター・コードレスホンの管理、その他

③経理

・財務会計処理、利用料等の請求、親の会会計、親睦会の会計、物品購入、職員給与計算、調査統計、出張命令稟議書の作成、その他

3 まとめ

上記の業務については社会福祉法人ともえ会の諸規程、ともえ学園内規を基本として日々行った。
これからも原理原則を基本に、利用者、利用者家族、職員に信頼され、厳正でかつ平等に日々遅滞なく確実に遂行していきたい。

(高田孝康・清政圭子)

9 防災管理

1 目的

- ・災害発生時は、速やかで適切な対応となるよう危機管理体制を充実させる。
- ・消防訓練を反復し疑似体験を積むことを重要とし訓練を積む。
- ・緊急時への対応能力向上を図る。

2 新任職員対象の防災研修会の実施

1) 研修内容

①利用者不明時の対応

日勤帯、夜勤帯の連絡方法など・施設個所の確認・危険物の取り扱いと理念

日常的な利用者の所在確認と注意事項

②消防関係:「防災マニュアル」を資料として基礎知識を習得

消防設備及び施設設備を実地見学

③AED、人工呼吸器、吸引掃除機の設置場所、操作説明

3 緊急時の対応

「吸引掃除機」を食堂の手洗いの下に、いつでも使用出来る状態で保管、点検を随時実施。

「人工呼吸器ユニット118番」と「AED」は職員室と医務室に各1台ずつそれぞれ常置。

4 毎月消防訓練実施

①夜間想定総合訓練 5月・6月・7月・8月（消防署3名立ち会い）・10月・11月・12月
2月・3月

②昼間の総合訓練 4月・9月・1月

※毎月消防訓練実施結果記録票を記載し保管した。

8月、2月 消防署へ消防訓練実施計画書・結果報告書提出

5 新任職員防災研修：6月1名

6 消防設備定期点検：9月、3月 専門業者に委託し実施

7 消防署立入検査：5月21日（月）2名来園 … 指摘事項なし

8 その他

- ・防災マニュアルに、「早出勤務の職員が出勤しない場合」を追加

10 安全運転管理

1 目標

- ・交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守と人に優しい交通マナーを実践し交通事故、交通違反を防止する。
- ・車輛の点検、整備を実施し車輛の故障、整備不良による事故が発生しないよう注意する。

2 内容

- ・トライザセーフティinひろしまへ10チーム参加
- ・安全運転管理者講習会への参加
- ・サイボーズ周知による安全運転の啓発
- ・各季の交通安全運動の周知
- ・車輛の点検、整備を業者に依頼

3 まとめ

- ・トライザセーフティinひろしまへ参加した10チーム中9チームが、150日間無事故、無違反を達成する事ができた。全チームの目標達成は今年度も出来なかった。
- ・改正道路交通法の周知の徹底と安全運転への意識を高めるため次年度も啓発していきたい。

（魚見敏満）

11 危険物取扱者

1 概要

地下タンク貯蔵所の灯油漏れを未然に防ぐため法律で定められた点検を定期的に行っている。

2 内容

- ・毎月、掲示板、漏油検知管、通気管、消火器の有無等の点検を行った。
- ・消防法第14条の3の2に基づき、完成検査を受けた日から15年をこえるものは1年に1回以上の点検を行わなければならないため、9月業者による地下タンク配管の検査を行った。

（後田喜代子）

12 運営会議

実施概要

- ・園長、次長、全ての部課長の8名で構成し、毎月、月初めに開催し協議した。
- ・会議では、利用者主体の指針を見失わないように、問題提起、課題検討、日程調整等を行い、施設のより円滑な運営と利用者サービスの向上を目指した。
- ・資料など、紙は一切使用せず、パソコンとモニターを利用して、随時必要な情報はインターネットからも収集し会議を進めた。
- ・会議後は速やかに会議録をまとめ、即日、全員に周知した。

(高田孝康)

1 3 支援部課長会議

実施概要

- ・支援部長と支援課長の4名で構成し、毎月、月末に翌月の運営会議開催日までに会議日を設け、予定調整や利用者支援について意見交換、情報を共有し利用者サービスの向上を目指した。
- ・他部署との連絡事項、取り組みの見直しや検証、マニュアルの更新等について協議した。
- ・会議の経過及び結果は会議録を作成し、業務の統一を図るため全員に周知した。

(塚本博志、久保宏子、藤田由香里、福永真也、魚見敏満)

1 4 個別支援会議

実施概要

- ・ケース担当者、グループ課長、看護課長、栄養課長、サービス管理責任者、子鹿障害児等相談支援事業所相談支援担当者の6名で構成、毎月中旬以降12名前後の方を対象に実施。
- ・県外利用者担当:サービス管理責任者(高田)、県内利用者担当:サービス管理責任者(塚本)
- ・半年毎に各利用者さんの会議を設け、モニタリングとサービス内容について協議した。急遽変更等あった場合は必要に応じ会議を追加した。
- ・会議日の調整、ご家族の参加があるときには時間延長が可能となるように配慮した。
- ・会議開催日が決まると、対象となる利用者さんのご家族へ事前に電話で案内し、参加の有無やご意見、ご要望等を聞いた。
- ・9月よりサービス担当者会議から個別支援会議に名称を変更
- ・個別支援計画書作成後には、各ご家族に送付し計画書の承諾を得た。
4月～10名対象:ご家族参加0件 5月～12名対象:ご家族参加1件
6月～11名対象:ご家族参加2件 7月～13名対象:ご家族参加4件
8月～12名対象:ご家族参加2件 9月～11名対象:ご家族参加5件
10月～11名対象:ご家族参加1件 11月～12名対象:ご家族参加4件
12月～11名対象:ご家族参加2件 1月～11名対象:ご家族参加3件
2月～12名対象:ご家族参加3件 3月～11名対象:ご家族参加2件
- ・ご家族と連携を取りながら利用者さんの想いに寄り添ったサービス支援に努めた。

(高田孝康、塚本博志、後田喜代子、櫻井永子、藤田由香里、久保宏子、福永真也)

1 5 朝礼

実施概要

- ・参加者は夜勤者以外の全出勤者とし、職員室を会場として毎日9時から実施した。
- ・開会挨拶、服装と身嗜みのチェックから始まり、各グループ、全体係、その他からの報告、予定な

どの報告、出勤職員の体調状況の報告、笑顔の練習、最後に閉会挨拶で終了する。

- ・各部署の日誌をプロジェクターからスクリーンに表示させ、発表者はマイクを使用し発表した。
- ・毎月9日にはAEDと人工呼吸器のチェックを行った。
- ・発表者の声の大きさや表示位置などを再確認し、さらに確認しやすい環境を整えていく。

(高田孝康)

16 園内行事

- ・一年を通して季節を感じる行事など、全体で参加出来る行事として学園内で計画実施した。

1 ワックス掛け

日時 令和元年5月2日 木曜日

はなまる→レインボーの順で掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインした。晴天の為、家具等は屋外に移動した。

(利用者さんの動き)

はなまる：外出 レインボー：センターでレクリエーション トライアングル：通常日課

2 活動披露会

日時 令和元年5月9日 木曜日 14時00分～15時15分 場所 多目的棟、畑

各グループ活動の報告後、グループ順に「安納芋の苗植え」「植菌」「椅子作り」「薪割り」体験。

椅子作りは工程が複雑な部分もあり、説明に難しさを感じた。畑を新設し、そこへ各グループ別にサツマイモを植えてもらった。

3 ミニレク祭

日時 令和元年6月10日 月曜日 13時50分～15時50分 場所 活動センタープレイルーム

巨大オセロゲームを行った。各グループでオリジナルのオセロの駒を作成してもらい使用した。

手形で白・黒を表現した駒や、令和と書かれた駒など、バリエーションに富んだ駒が出来上がっていた。ゲーム終了後、大作業室で用意した間食を飲食してもらった。

4 ボランティア演奏会

日時 令和元年6月23日 日曜日 13時30分～14時30分

- ・三次太鼓育成会、総勢11名を迎えボランティア演奏会を多目的棟で開催。
- ・ボランティアの方にはセンター宿泊室を控え室にしてもらい対応した。
- ・親の会行事、茶話会終了後に約40分程の演奏会だった。

利用者、家族、職員も一緒に演奏する時間もあり、みなさん楽しそうに参加されていた。

5 ワックス掛け

日時 令和元年7月26日 金曜日

職員室→食堂→トライアングル→管理棟廊下の順に掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインをして行った。

(利用者さんの動き) トライアングル：外出 レインボー、はなまる：通常日課

6 物故者追悼式

日時 令和元年8月10日 金曜日 10時15分～11時00分 場所 療育センター・プレイルーム

物故者紹介、黙祷、追悼の言葉、献花、献歌、閉会。物故者の紹介では、参加者全員、最後まで、

亡くなった方を偲び追悼する事ができた。献花した花は追悼式後、ともえ会のお墓にお供えした。

7 ワックス掛け

日時 令和元年8月13日 月曜日

レインボー → はなまるの順に掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインをして行った。

- ・利用者さんの動き トライアングル、レインボー：通常日課 はなまる：外出

8 収穫祭

日時 令和元年10月17日 木曜日 10時00分～15時00分 場所 畑、センター多目的棟

午前中はグループごとに芋掘りを行い利用者さん全員に芋を収穫してもらい、午後より収穫祭開催。収穫した野菜の紹介と榊奉奠が行われた。御神輿披露、御神酒としてジュースが提供された。

9 ワックス掛け

日時 令和元年10月25日 金曜日

食堂→トライアングル→食堂前廊下→管理棟便所→管理棟廊下の順に掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインをして行った。

- ・利用者さんの動き トライアングル：外出 レインボー、はなまる：通常日課

10 文化祭

日時 令和元年11月6日 水曜日 10時10分～15時00分 場所 療育センター

展示物鑑賞、プレイルームのプロジェクターで紙芝居上映をおこなった。紙芝居は係の職員がセリフを言い、BGMを生演奏するなどして盛り上げた。

午後は、のど自慢大会を行い、各グループより選出された方達が得意な曲を歌っておられた。職員は、ザ・ベストテン風に司会進行を行い、カウントダウン方式で曲を紹介した。

11 作品展示会

日時 令和元年11月11日 日曜日 13時30分～14時30分 場所 療育センター

各グループで作った作品（トライアングル：モザイクアート、レインボー：万国旗、はなまる：タイルアート、個人作品、写真撮影用の作品）、木工クラブで作った物、フラワークラブ、書道クラブの作品をセンター一階廊下に展示。親の会例会終了後、利用者さんにご家族に見学をして頂いた。

12 餅つき

日時 令和元年12月28日 土曜日 10時00分～14時40分 場所 療育センター・プレイルーム

グループ別に餅つきを実施。午前は、はなまるグループとレインボーグループ、午後はトライアングルグループの順だった。沢山の利用者が餅つきや餅もみの体験をされた。出来上がったお餅は、午後の間食でぜんざいとして提供された。後日、元旦のお雑煮と、とんどでも提供された。

13 職員年賀式

日時 令和2年1月6日 月曜日 9時～9時5分 場所 ともえ学園 職員室

新年を祝い、一年の健康と多幸を祈念した。演台側を正面とし全員正面に向かって並び整列し朝礼前に次長の進行により開会。

一同礼の後、園長の年頭の挨拶、年男、年女2名の職員による今年の抱負。最後に新年を祝い、ノンアルコールスパークリングワインで乾杯した。

14 利用者年賀式

日時 令和2年1月6日 月曜日 10時00分～11時00分 場所 療育センター・プレイルーム

年男5名の利用者さんは正装され前席に着席、園長より年頭の挨拶、年男の方紹介、年男代表者挨拶鏡開き、スパークリングワインで乾杯、各グループの抱負を課長から発表、新たな一年のスタートとなった。

15 とんど

日時 令和2年1月15日 水曜日 10時10分～11時30分 14時10分～14時45分 場所 駐車場裏

係長の挨拶により開始、年男5名の利用者さんと職員1名にトーチを持って頂きとんどに点火。

利用者さんは、しばらくとんどの火を見学。午後より食堂で、とんどの熾火でお餅を焼き提供された。

16 活動報告会

日時 令和2年3月15日 金曜日 10時00分～16時00分 場所 センタープレイルーム

グループ別に行事は執り行われた。活動係によりパワーポイントでの本年度の決算報告とスライドにて写真を見ながら一年間を振り返った。間食には焼き芋が利用者の皆さんに提供された。

(塚本博志)

17 対外行事

他施設や地域の方々との交流や親睦を図りながら、地域社会の理解を深める事を目的に実施。

2019障害者フライングディスク競技大会inみよし

日時 令和元年8月18日 日曜日 8時50分～15時00分 場所 みよし運動公園テニスコート

参加者 利用者10名 支援職員6名

結果 50代・60代女性の部: 2位(1名) 40代の部: 1位(2名)、2位(1名)

20～30代の部: 2位(2名)

競技後、ビンゴ大会があり全員が参加された。

(塚本博志)

18 外泊

1 ご家族からの連絡で、希望日を受け付けて外泊を実施した。

外泊については全体へ周知後、外泊経過票・薬袋・外泊時のご家庭用連絡用紙・外泊時特記連絡事項票を作成、事務室掲示板に外泊期間記入、随時外泊一覧表記入、スケジュール記入を随時行った。

変更があった場合は、全体周知及び各用紙記入変更、一覧表やスケジュールを変更した。

2 外泊件数(月を挟んでの外泊は、外泊終了月を数に含む)

4月11件、5月27件、6月15件、7月11件、8月21件、9月14件、10月13件 11月15件、12月10件、1月24件、2月9件、3月4件

3 療育センター宿泊室利用件数

4月1件、5月1件、7月1件、8月1件、10月1件

(塚本博志)

19 虐待防止委員会

内容

- 1 「虐待防止のための計画づくり」…虐待防止の研修や、マニュアルやチェックリストの作成と実施、掲示物等ツールの作成と掲示等の実施計画づくり。
- 2 「虐待防止のチェックとモニタリング」…虐待防止の取り組みの実施プロセス
虐待防止チェックリスト、個々の支援体制の状況（課題）、発生した事故（不適切な対応事例も含む）状況、苦情相談の内容、職員のストレスマネジメントの状況等の現況を踏まえて、どのような対策を講じる必要があるか具体的に検討し、職員への研修計画や各部署の職員が取り組む改善計画に反映させ、虐待防止マネジャー（部課長）を中心とした各部署での具体的取り組みを指示。
- 3 「虐待（不適切な対応事例）発生後の検証と再発防止策の検討」…虐待や疑いが生じた場合、行政の事実確認を踏まえて施設で事案を検証の上、再発防止策を検討し、実行に移す。

まとめ

- ・委員長：園長 委員：次長、部長、全課長の構成で、毎月定例の運営会議時に開催し、会議内容は運営会議録と共に全職員に周知した。
- ・各部署での具体的な取り組み方法を策定していく。

（前岡孝司、高田孝康、塚本博志、藤田由香里、後田喜代子
久保宏子、櫻井永子、福永真也、魚見敏満）

20 危機管理委員会

実施概要

施設において発生又は発生することが予想される様々な事象に伴う危機に迅速且つ的確に対処するための体制を確立し、利用者及び職員の安全確保を図るとともに、施設の社会的責任を果たすための検討。

1 危機に対する対応

- ・危機の発生を想定し、発生時の対応マニュアルの策定と見直し、予防体制の構築。
- ・危機が発生した場合、利用者の安全を確保するための適正な応急措置へのマニュアル、迅速な対応と的確な対処に向けての検討と定期的な見直し。

2 危機別の計画及び対応

- ・防災計画より自然災害、天変地異・火災・感染症等・不審者、侵入者、犯罪等について話し合った。危機に対する対応について種別に確認や検討を行うとともに、防災の取り組みや備え他について議題に取り上げていった。

3 まとめ

- ・委員長：園長 委員：次長、部長、全課長の構成で毎月定例の運営会議の時に開催し、会議内容は運営会議録と共に全職員に周知した。

（前岡孝司、高田孝康、塚本博志、藤田由香里、久保宏子、
福永真也、魚見敏満、後田喜代子、櫻井永子）

21 衛生委員会

実施概要

- ①健康障害の防止、健康の保持増進対策の検討。
- ②労働災害の原因及び再発防止対策の検討。
- ③健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項の検討。

毎月1回、5名の委員で開催した。会議後は速やかに会議録をまとめ、全員に周知した。

(高田孝康、吉長成恭、櫻井永子、山岡由佳、岡下チエミ、岩戸洋三、掛川陽介、竹間和輝)

2.2 人権委員会

1 年間目標

- ・利用者、職員同士に於いても人権侵害、暴力、暴言は絶対に行わない。
- ・差別的な言動、体罰を用いた支援は絶対に行わない。
- ・礼節ある言葉遣いとプライバシー保護への配慮をする。
- ・専門職間の相互支援による孤立の予防。(より開放的にして関わる)

2 重点目標と具体的事例

4月5月【丁寧な言葉で接する】相手の気持ちを考えた言葉

6月7月【自らの権力性を意識する】利用者と対等(同じ目線)になって支援できているか

8月9月【聴く姿勢を持って接する】利用者の気持ちに寄り添う姿勢を持って聴く

10月11月【利用者の『出来ること』に目を向けた支援を行う】自分の常識に当てはめて、利用者の出来ることを奪ってはいないか

12月1月【利用者の苦手なところを意識して支援していますか?】利用者の弱い部分に配慮した支援が出来ているか、自分の支援について考えてみましょう

2月3月【利用者の不安を煽っていませんか?】不必要な声掛け、無視をするなど、支援とは到底呼べない様な事はしないようにしましょう

3 実施内容

- ・目標と具体的な事例を挙げて振り返りを毎月、グループ会議後に人権委員会会議で協議し、人権意識を高めた。
- ・人権に関して身近な具体的課題を出し合ったり、職員から出た意見他協議し全員へ周知した。
- ・人権相談の実施。

人権委員会メンバーが窓口になり人権相談や人権問題に取り組んだ。相談事が出た場合や問題点は随時、人権委員会では取り上げ検討や解決に向けていけるように声を掛け合った。

・人権擁護啓発活動の実施

管理棟職員室にポスターを掲示。人権啓発ポスター掲示計画書・報告書の提出を行った。

4、5月…(山縣) 6、7月…(渡邊) 8、9月…(中野) 10、11月…(若床)

12、1月…(濱本) 2、3月…(塚本)

4 まとめ・今後の課題

毎月人権に関わる目標を掲げ全体で取り組むように各部署へ発信した。翌月には人権委員会会議で各部署の振り返り意見を出し合い協議をした。繰り返し目標を発信し振り返ることによって人権意識の向上へ繋がった。

(塚本博志、濱本 豊、若床まゆみ、渡邊 武、中野基行、山縣圭子)

2.3 サービス向上委員会

サービス向上の企画、検討、提案を目標とし、全職員対象にサービス自己評価チェックを実施した。

サービスの向上に繋がる取り組みなどを随時、運営会議や支援部課長会議に提案を行った。

(高田孝康、塚本博志、後田喜代子、櫻井永子、堂西美保、高場修治、桑田樹実)

2.4 健康体操

- 1 目的：専門の講師に身体を動かす事について教えて頂き楽しみながら健康維持につなげる体操をする。身体を動かすことの喜びにつなげる。同じ環境や雰囲気での運動の場を提供し、声掛けにより利用者の変化や好み等を観察していく。

2 内容

講師：河原田聡美氏

日程：毎月1回 第二土曜日の午前を基本に講師と話し合いの上、日程を決定した。

3 実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施日	1 3	2 7	8	6	3	7	2 6	9	8	中止	中止	中止

4 課題、まとめ

- ・はなまるグループは講師からの提案でオリンピックにちなんだ体操を中心に行う。今までの体操より運動量が多かったが出来る範囲で身体を動かしていた。トライアングルとレインボーは講師がその日の利用者の様子、雰囲気等で行う内容を変え、ウォーキングやストレッチ、音楽に合わせた踊りなどを行った。参加出来る利用者も少しずつ増えてきている。
- ・三次福祉祭りは「きりり」であった為会場がかなり広くなり落ち着いて参加する事が出来た。
- ・インフルエンザで一度、講師の都合で二度中止になった。感染症が流行った際は無理をしないようにしていく。
- ・楽しく運動することで張り切りすぎや、骨折や捻挫の危険性があるので職員が危険の無い運動できる状態で支援する。また参加しにくい利用者が少しでも興味のもてる内容を提供して行く。

(藤本将太郎、桑田樹実、菅原献司)

2 5 フラワークラブ

- 1 目的：専門の講師にフラワーアレンジメントを習い、経験を重ね、自信に繋げていく。

- ・花を切ったり、生けたりすることを体験することで楽しさに繋げていく。
- ・継続することで、利用者の変化や好み等を観察していく。

2 内容：毎月、第3火曜日の13時50分～15時20分

- ・2班に別れ3グループ合同で行った。
- ・生けた花は、1月までは管理棟玄関に展示（トライ、レインボー）、はなまるは居室で管理。2月からははなまる利用者分は利用者玄関へ展示し、水やり等の管理も利用者主体で行ってもらった。親の会行事の時は、センターに展示。外泊等の際に随時持ち帰ってもらった。

3 経過： 4月16日 花植え（一年草）

5月21日 テーマ：五月晴れ

6月18日 花壇への花の移植

7月16日 テーマ：梅雨の晴れ間

8月20日 テーマ：夏の終わり

9月17日 テーマ：秋のおとづれ

10月15日 テーマ：色づく秋

11月6日 テーマ：秋まつり（展示会用）

12月6日 テーマ：クリスマスと春の訪れ（健康福祉まつりへの参加）

- 1月21日 テーマ：希望
2月18日 テーマ：雪の華
3月17日 テーマ：ひなまつり

4 感想と課題

- ・講師の先生とのコミュニケーションもとれている。特にはなまる利用者さんは、挨拶やお礼を積極的に伝えている。
- ・係職員以外にも参加できる職員がいることで、一人ひとりと関わりながら、アレンジメントをすることが出来た。
- ・ハサミを使用して花を自分の感覚で切っていける事が出来る利用者さんも、少しずつ増えてきている。
- ・自分で花を切る事が出来ない利用者さんには、事前に切ってセットしたり、利用者さんに聞きながら職員が切った。
- ・2班に分かれたことで、はなまる利用者さんが他グループの利用者さんに積極的に声を掛け一緒に行ったり、はなまる利用者さんが片付けをするのを見て、他利用者が片付けが出来たり、片付けを手伝う場面などを見ることが出来た。
- ・花の展示場所、展示期間など考えていく。

(竹林祐樹、堂西美保、川本亜由美)

2 6 書道クラブ

- 1 目的：意識を統一して、書く楽しさを知る。
 - ・書くことにより精神の安定を図る。
 - ・作品を出展し、生活の励みとする。
 - ・書道が好きな利用者の楽しみを増やす。
 - ・展示される事でやりがいを見い出す。
- 2 内容：毎月1回、第3土曜日の午後から大作業室で行った。
 - ・メンバーはトライアングル9名、レインボー5名、はなまる15名で行った。
 - ・課題は講師と相談して決めて実施した。

4月…「花」 5月…「令和」 6月…「夏」 7月…「空」 8月…「花火」
9月…「秋分」 10月…「令和」 11月…「実り」 12月…「紅白」
1月…「雪」 2月…「豆」 3月…「春風」
- 3 経過：講師（師範の免許を持つ職員：山縣さん）を招き、一年間活動できた。
 - ・親の会やセンターでの行事の際には展示を行った。
 - ・毎月、出品用と展示用の2作品を選び、4月分から12月分の作品の中から一人一点を厳選し、1月に「ふれあい書道展」にメンバー全員が出品できた。また、展示用の作品は毎月管理棟玄関への展示を行った。文字の配置や間隔が難しい方が多くいた為、一文字にしたり、もしくは、カタカナ、ひらがな、などで書いてもらった。最初に比べ、書ける利用者さんも多くなり簡単な字は全員が書くことが出来るようになった。随時、筆の更新なども行っている
- 4 課題：文字の配置、大きさ、墨の量についても随時声掛けや、今後の課題としている。

ふれ合い書道展への出品回数、作品選考、作品の保管の方法についても考える。

(講師：山縣圭子、係員：岩戸洋三、中岡健太朗、今田弘之)

27 グランドゴルフ

- 1 目的 スポーツをすることの楽しみを持ってもらう
身体を動かすことで、現状維持及び向上を目指す。
- 2 内容 ・クラブを使用した機能訓練体操
・グランドゴルフの練習
- 3 経過 ・今年度より毎月水曜日にクラブ活動として実施することになり、全グループ利用者さんを対象にグランドゴルフを行った。
・グループの日課の関係で要望があり、1月からAグループとBグループの編成を行い、Aグループははなまる、Bグループをトライアングル、レインボーに変更した。
・雨天時はプレイルームでマットを敷きプレイをする事を実施した。
・繰り返しクラブの持ち方や打ち方を指導することで、前年度に比べ真っすぐに打つことが出来たり、打数が減る利用者が増えた。
- 4 まとめ クラブ活動化することで、グランドゴルフの存在を知ってもらい、確実な時間を確保できることで、より本格的に練習に取り組むことやモチベーションの増加につながった。
前年度は「日課にグランドゴルフをどうやって組み込めるかが課題」であったが、クラブ化によって今回全体的な時間の見直しを行うことが出来た。形が少しずつ出来て来たので、今後学園内での大会、外出先でのグランドゴルフを実施していきたいと思う。

(菅原献司、濱本 豊、藤井佑紀)

28 地域交流

- 1 目的：利用者さんの社会参加を向上させるため、地域の方と交流をしていく。
地域で体験をする事で気分転換を図る。
職員も体験することで、活動への視野を広げていく。
- 2 内容：7月17日（水） 東山農園（にらの収穫と包装作業、東山さんと交流）
8月6日（火） 東山農園（菊の切り取りと包装作業、東山さんと交流）
9月20日（金） 東山農園（菊の畑の整備、東山さんと交流）
10月11日（金） 折り紙博物館（こけ玉作り、園芸福祉ネットワークの方との交流）
11月3日（日） 河内ふれあい祭り参加（東山さんと地域の方との交流）
7月～9月までは、暑い時期のため学園を8：30出発 11：30帰園
(12月～3月は、感染症の流行季節なので交流は行わなかった。)
- 3 まとめと課題
・参加メンバーは、各グループでその都度、選出した。はなまるは、野菜クラブの利用者が主に参加した。東山農園では、農作業を行った後、農園の方の御厚意で報酬の代わりとして、飲み物とお菓子を差し出していただき、利用者の喜びに繋げることが出来た。
畑の片付け、菊やにらの出荷作業などの体験をすることが出来、最後の片付けまでを行った。
・園芸福祉ネットワークの方との交流では、事前に打ち合わせを行い、参加する利用者に対しての人数を確保してもらい、園芸福祉ネットワークの計画に沿って交流を行った。
・課題として、係の職員だけの参加では、何をしているのかがわかりにくいので係職員以外の参加もしていく。

- ・日中活動係とも連携して、交流の回数を増やして行きたい。

(若床まゆみ、圓藤久明、菅原献司、林 宏典)

2 9 入浴

1 取り組み

- ・利用者が安全で安心して使用できる浴室の環境整備や管理を行った。

2 内容

- ・シャンプー、ボディソープ、浴室洗剤などの資材が不足しないよう点検、補充を行った。
- ・毎月第3土曜日の午前に、各グループから一人出て浴室内外の清掃を行った。年間を通して清掃場所を決めて実施した。
- ・入浴支援担当表を作成しスムーズな職員配置を組んだ。また、勤務変更があった場合は随時変更し病院受診などの急な職員不足にも対応できた。
- ・体調不良の個室対応の利用者がいた場合、入浴時間の変更を行い感染防止に努めた。
- ・随時、バスタオル、洗体用タオル、足ふきタオル、職員用タオルを更新した。古いバスタオルは床拭き専用雑巾として、再利用した。
- ・掃除道具の点検補修を行った。

3 経過・課題

- ・資材等の管理、発注は事務所の管理となった。
- ・随時、タオル類や洗剤等の消耗品の点検、補充を行った。
- ・備品の破損等の点検を定期的に行う必要がある。

(圓藤久明、上川清美、毛木章義)

3 0 洗濯

1 取り組み

- ・利用者の衣類等の洗濯をスムーズに行えるよう、洗剤等必要な物が不足しないように補充する。
- ・洗濯室を衛生的に使用出来るように工夫を行う。
- ・大型洗濯機、汚物処理洗濯機、小型洗濯機等が故障しない様点検する。

2 内容

- ・洗濯洗剤、柔軟剤、ソフランシート、酸素系漂白剤、汚物洗濯機用洗剤類等の資材が不足しないよう点検、補充、管理を行った。
- ・毎週日曜日9:20～9:30まで、洗濯室内の清掃を行った。
- ・大型洗濯機、汚物処理洗濯機、小型洗濯機の点検を適宜行った。
- ・洗濯室内を安全かつ清潔に使用できるように設備した。
- ・洗濯係会議を新たに設け、洗濯室の改装や点検、清掃、雑巾の作成などを行った。

3 経過・課題

- ・汚物処理洗濯機が2台ある事で汚物洗濯がスムーズに行えた。また夜勤リーダーが、汚物で洗濯した衣類や雑巾などを夜間に畳むことで、洗濯物が溜まることが無くなった。
- ・夜勤リーダーが洗濯済みのシーツ類を片づけることで、洗濯室にシーツが溜まらなかった。
- ・洗濯室の段差を撤去(6/19)床シートを貼る(6/21)機の棚からスチール棚を設置し、利用者名を記名した。記名が分かりやすくなり、洗濯の仕分けが簡単になった。
- ・8月と1月に洗濯係会議を行い、業務の再確認、洗濯室の掃除、雑巾作成を行った。また、普段出

来ないところの掃除が出来た。

- ・第1日曜～第5日曜毎に掃除の場所を決め、各グループから1名出て実施した。
- ・洗濯室にロッカーを置き、掃除道具を準備した。
- ・掃除機の更新を行った。
- ・小型洗濯機のカビ取りを9月と1月に行った。
- ・洗剤の在庫確認をしっかりと行い、在庫が無くなることも無かった。
- ・洗濯物用のコンテナを汚れた物用（グリーン）と洗濯済み用（ブルー）とに分け、衛生的に使用すると出来るようになった。
- ・洗剤は、鍵付きの棚に収め、利用者さんの目につかないようにした。
- ・係職員へ、サイボウズで、洗剤の補充や洗濯室の設備について周知をして意思疎通を図った。
- ・雑巾の吸水性が悪いことが課題。

（若床まゆみ、川本亜由美、土橋羅夢）

3 1 寝具

1 内容

- ・毎週火曜日までに寝具の発注用紙を記入。
- ・火曜日に寝具の搬入があり、その後その月の係が在庫の確認と調整をする。
- ・各グループへの在庫枚数の確認をし、リネン庫入口より左の棚に置く。
- ・在庫を確実にする為に在庫は最低限にする。リネン台帳を作りリネン室に置く。
- ・布団やシーツを汚した利用者についてはリネン台帳に名前を記入し、寝具を持ち出す。
- ・定期的にリネン庫の掃除を行う。
- ・不潔リネン室に、業者より麻袋を置いてもらい土曜日に回収してもらう。
- ・血液・便の付着した掛・敷布団・毛布は洗わずに小さく丸めて黒ナイロン袋に入れて出し、回収してもらう。便の付いた物については便が付いていることを紙に書き、業者に分かるようにナイロン袋に入れておく。
- ・感染症に関わる汚染物が付着している場合黒色ナイロン袋に入れ袋に詳細を記入する。
- ・5月に掛け布団から毛布に、10月に毛布から掛け布団に変更。
- ・汚れている寝具は、その都度洗濯するか新しい物に取り替える。
- ・一年のうち、2回程度敷き布団の交換を行う。

2 反省

- ・シーツの仕分け等、係で確認し合い滞りなく仕分けをすることが出来た。
- ・寝具類の発注に関しては、毎回、忘れることなく出来た。
- ・在庫の数と用紙の数が合わないこともあった。
- ・便汚染などの汚れの布団も適切に処理し、業者へ回収してもらう事が出来た。

（上川清美、毛木章義、土橋羅夢）

3 2 営繕

1 目的

- ・依頼があれば、迅速、安く、丁寧に対応する。
- ・生活しやすい環境を整え整理整頓する。

2 主な実施内容

4月

- ・エアコン定期点検
- ・トライアングルトイレ棚取付
- ・はなまる中庭清掃
- ・レインボー中庭清掃
- ・レインボーシャワー室棚取付
- ・レインボー中庭物置修理
- ・レインボー廊下壁修理

5月

- ・グループ毎の物品整理
- ・トライアングル下駄箱整理
- ・トライアングル髭剃り充電器収納ケース整備
- ・トライアングルトイレ掃除道具置き場整備
- ・ムカデカダン、スミチオン散布
- ・雨樋清掃
- ・センタートレーニングルーム1鍵調整
- ・医務室前境鍵交換（レインボー側）

6月

- ・406号室、404号室ドア枠修理
- ・洗濯保管庫床撤去
- ・レインボー壁紙張り替え
- ・洗濯保管庫棚組み立て設置
- ・302号室壁紙補修
- ・換気扇掃除
- ・トライアングルトイレ入口ドアストッパー取り付け、化粧板破損部修理

7月

- ・エアコン定期点検
- ・エアコンフィルター掃除
- ・食堂壁紙補修
- ・管理棟会議室シュレッダー詰まり除去
- ・101号室テレビ棚アクリル板取付
- ・104号室DVDデッキ取付

8月

- ・301号室棚の化粧板補修
- ・311号室ドアクローザー修繕
- ・308号室ドア枠補修
- ・310号室ドア干渉部修繕
- ・レインボー洗面室手指乾燥 補強
- ・レインボー壁補修
- ・トライアングル倉庫ドア化粧板補修

- ・レインボー洗面室ドア蝶番調整
- ・各居室ベッド確認

9月

- ・食堂テーブル脚、椅子の確認
- ・はなまる中庭清掃
- ・レインボー廊下壁紙貼り替え
- ・換気扇掃除
- ・201号室ドア枠色付け
- ・401号室 402号室ドアクローザー交換
- ・多目的棟雨樋掃除
- ・レインボー職員室ドア枠色塗り
- ・311号室 壁紙張り替え

10月

- ・エアコン定期点検
- ・全居室ドアノブ点検
- ・洗濯乾燥機掃除
- ・洗濯室 掃き出しサッシ上部のエアフィルター汚れ確認
- ・加湿器フィルター掃除

11月

- ・エアコンフィルター掃除・交換
- ・401号室ドア修繕
- ・302号室、換気口の塗装
- ・トライアングルリビングの加湿器の取付調整（ズレの調整）
- ・遊歩道入口 南京錠の注油
- ・厨房洗浄室シンクボールタップ破損部分補強

12月

- ・換気扇掃除
- ・レインボー廊下壁紙貼り替え
- ・レインボートイレドア調整
- ・遊歩道入口フェンスずれ調整
- ・生活棟全ドア蝶つがいのビスの緩み確認
- ・401号室壁穴補修
- ・洗濯乾燥機埃除去

1月

- ・エアコン定期点検
- ・トライアングルトイレ窓枠修理
- ・509号室、ドアクローザー交換
- ・512号室ベッド補強
- ・エアコンフィルター確認、掃除

- ・加湿器フィルター掃除
- ・換気扇排気口掃除
- ・312号室天井クロス張り
- ・生活棟裏～日勤駐車場裏の溝掃除

2月

- ・エアコンフィルター交換、掃除
- ・408ドア枠修理
- ・洗濯乾燥機埃除去
- ・洗濯室汚物処理水栓前の壁修理
- ・312号室、ドアクローザー交換
- ・はなまるグループひげ剃り収納棚作成

3月

- ・換気扇掃除
- ・加湿器フィルター掃除
- ・エアコンフィルター確認
- ・302号室窓冊子穴埋め
- ・502号室ドア枠補強
- ・公用車タイヤ交換
- ・活動係手伝い

2 まとめ、課題

- ・「営繕作業計画書・報告書」を作成し、計画通りに作業を行った。
- ・エアコンフィルター掃除では高圧洗浄機を2台使用すると効率良く、午前中で殆ど作業を終えることが出来ているので午後から他の作業が出来た。
- ・居室、廊下の壁修理は減ってきているがドアクローザー、蝶番など劣化が進んでいる所が多くなっている。
- ・加湿器、換気扇の埃が溜まりやすく、定期的に掃除が必要と感じる。
- ・課題としては物品の保管場所、整理がなかなか出来ておらず使用したいときに物品がない事の無いように事前に確認しておく。

(見土 唯、圓藤久明、竹間和輝)

3.3 食堂

- 1 目的：食堂の環境整備、清掃、備品の管理をおこない、毎日の食事を美味しく気持ち良く摂っていただける快適な空間と支援を提供するため企画検討実施する。

2 内容

- ・各グループで作ったお祝いパネルで誕生日に食堂でのお祝いを行った。
- ・タオルから台拭き作成し、古くなった台拭きは食堂掃除用として使用した。
- ・各グループで必要に応じて利用者の席、机の変更を行った。
- ・毎週日曜日に各グループより一名ずつ集まり、食堂の汚れている箇所を清掃した。
- ・稟議書で一年間の掃除場所を固定し、年度初めに周知した。
- ・食堂掃除は昼は日中活動か職員かレインボー職員、朝、夕は夜勤リーダーが拭き掃除を行った。

- ・職員介助用エプロンを新しい物に更新。破れて場合やボタンが取れた場合補修を行った。
- ・食堂テーブルの脚のぐらつきが合ったので修理を行った。
- ・利用者が座面を破いた椅子の廃棄と補充。
- ・食堂掃除用メラニンスポンジの補充。
- ・座位が不安定な利用者用として肘掛け付きの木製の椅子を購入した。

3 課題・まとめ

- ・毎月食堂係へサイボウズで食堂の環境やその他の事について、意見を出してもらい、会議録を作成した。
- ・来年度、食堂の床、サッシのサン、窓ガラスを年間を通して清掃出来る様計画する。

(河合淳雄・佐々木優希・金田和夫)

3 4 ともし通信

1 概要

- ・ともし通信の編集発行と、2019年度の事業報告書の編集発行。
- ・ともし通信は毎月1日に印刷。ご家族、理事、評議員に配布し、同時にホームページに掲載。
- ・職員の感想も募り次号の参考とした。

2 毎月の記事

◇5月1日発行 第373号	①4月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④営繕係
	⑤5月の予定	⑥人事異動のお知らせ	⑦編集後記	
◇6月1日発行 第374号	①5月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④活動披露会
	⑤6月の予定	⑥人事異動のお知らせ	⑦編集後記	
◇7月1日発行 第375号	①6月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④ミニレク祭
	⑤7月の予定	⑥退園のお知らせ	⑦編集後記	
◇8月1日発行 第376号	①7月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④地域交流
	⑤8月の予定	⑥新利用者さん	⑦編集後記	
◇9月1日発行 第377号	①8月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④障害者フライングディスク競技大会in三次
	⑤9月の予定	⑥人事異動のお知らせ	⑦編集後記	
◇10月1日発行 第378号	①9月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④健康体操
	⑤10月の予定	⑥編集後記		
◇11月1日発行 第379号	①10月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④収穫祭
	⑤11月の予定	⑥編集後記		
◇12月1日発行 第380号	①11月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④文化祭
	⑥12月の予定	⑦人事異動のお知らせ	⑨歩道陸橋撤去	⑧編集後記
◇1月1日発行 第381号	①12月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④書道クラブ
	⑤新年の挨拶	⑥1月の予定	⑦編集後記	
◇2月1日発行 第382号	①1月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④とんど
	⑤2月の予定	⑥人事異動のお知らせ	⑦編集後記	
◇3月1日発行 第383号	①2月の様子	②各グループの出来事	③一品メニュー	④フラワークラブ
	⑤3月の予定	⑥編集後記		

◇ 4月1日発行 第384号 ①3月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④活動報告会
⑤4月の予定 ⑥編集後記

(高森 強、藤本将太郎、川本亜由美)

3 5 職員研修

1 職員研修会

①目的：研修の機会の提供・利用者支援技術の向上。

・障害者に対する人権意識、福祉に携わる人の心得を認識するため。

②内容

・6月29日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者15名

講師：安田女子大学教授 船津守久先生

内容：①「自閉症の人間力を育てる」

「コミュニケーション力で人生を変える」（資料とDVD）

②サポーターズカレッジ(Q & A 自閉症冰山モデル作成のコツ、強度行動障害支援上の注意、
初動)視聴、感想、意見交換

・8月23日（金） 18：20～19：20 センタープレイルーム 参加者21名

講師：三次消防署職員 3名

内容：備北地区消防組合消防本部における、応急手当の普及啓発推進要綱

第5の規定による「救急教室」

・9月28日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者20名

講師：安田女子大学教授 船津守久氏

内容：①「発達障害への支援」

「コミュニケーション力で人生を変える」講義とDVD

②「水中毒を起こす5つの原因と、対策方法！」（資料）の紹介。

「統合失調症の水中毒〔臨床〕水を飲みすぎる人たち - YouTube」観賞・意見交換

・11月30日（土） 18：10～19：00 職員室 参加者19名

講師：安田女子大学教授 船津守久氏

内容：①「発達障害への支援」

「中・高校生の人格と情緒」講義とDVD

②サポーターズカレッジ(ケース記録の書き方、ヒヤリハットの記録の残し方と活用法)
視聴、感想、意見交換

・船津先生に4回講義していただき、心理学を通して利用者への理解を深めることができた。

・参加者の増加を目指し、毎回各職員に参加を促すメールを送った。参加人数が多い回もあったが、
経験年数の浅い職員の参加率が低い。また、全く参加しない職員もある。

・6月、11月の研修ではサポーターズカレッジの中から研修してみたい項目を実施日毎に2項目選
び、その動画を視聴するとともに意見交換を行った。

・9月の研修では水中毒を取り上げ、動画の視聴と意見交換を行った。その際、アドバイザーには櫻
井看護課長をお願いした。

2 新任職員研修

・ともえ学園での業務内容について理解を求めると共に、適切な支援が出来る職員の育成を行った。

研修資料を渡し、運営方針、パソコンの取扱、消防関係、知的障害他、処遇関係、栄養課業務、看護課業務について研修を実施した。

- ・ヒアリング…業務終了前の10分程度その日の業務についてヒアリングを実施、約1週間継続した。
- ・DVDの視聴と書籍を読んでもらい、それぞれについて感想文を提出してもらった。
- ・新任職員にサポート職員を任命、サポート職員や上司は日々の様子や感想、困った事等はなにか、いつでも聞ける体制を敷いた。
- ・実施時期 令和元年年4月 対象職員：生活支援員1名
6月 対象職員：生活支援員1名
(高場修治、熊澤誠治、桑田樹実、掛川陽介、林 宏典)

3 6 親の会

- 1 概要：ともえ学園入所者のご家族で組織されたものが「ともえ親の会」であり、事務局は親の会係として職員が担当しており、以下親の会の活動を紹介する。

2 事業

- (1) 総会 平成31年4月27日(土) 46家族、55名参加 於：ともえ学園療育センター
- (2) 懇親会 平成31年4月27日(土) 30家族、38名参加 於：三次グランドホテル
- (3) 役員会 ◇1回目 平成31年4月27日(土) 於：ともえ学園療育センター
◇2回目 令和元年6月23日(日) 於：ともえ学園療育センター
◇3回目 令和元年11月10日(日) 於：ともえ学園療育センター
- (4) 茶話会 令和元年6月23日(日) 44家族、55名参加 於：ともえ学園療育センター
- (5) 研修会 令和元年11月10日(日) 45家族、57名参加 於：ともえ学園療育センター
演題「安心できる環境調整と居場所づくりのために」 講師 船津守久先生
- (6) 親の会瓦版の発行 2019年 10月、2020年 2月

3 ともえ学園行事等への参加、協力

- (1) 演奏会 令和元年6月23日(日) 44家族、55名参加
- (2) グループレクリエーション
◇はなまるグループ 令和元年10月12日(土) 13家族、17名参加
◇レインボーグループ 令和元年9月29日(日) 蟻虫罹患の為中止
◇トライアングルグループ 令和元年10月6日(日) 15家族、18名参加
- (3) 作品展示会 令和元年11月10日(日) 45家族、57名参加

4 感想・今後の課題

- ・茶話会での家族同士の意見討論会は良かったと思います。
- ・研修会ではほぼ、タイムスケジュール通りに終える事が出来て良かったです。

(今田弘之、中岡健太郎、竹林祐樹)

3 7 ボランティア

1 概要

- ・社会福祉協議会を通し、ボランティアグループみよしの施設ボランティア計画に沿って各地区のボランティアと連絡を取り、来園して頂いた。作業内容としては、衣類補修の他、台拭きや雑巾の作成など、縫い物を中心に作業をして頂いた。
- ・園内行事「ボランティア演奏会」の起案。

- ・「夏・体験物語」ボランティア受け入れ。庄原実業高校より1名参加。

2 施設見学

- ・今年度の施設見学は1回（神杉地区ボランティア様）
- ・来園されたボランティアの方々の承諾を得て、作業風景と集合写真を撮影させて頂き、写真をフェイスブックに掲載した。

3 作業

- ・作業に不足している物がないように随時補充を行った。
- ・ミシンの調子があまり良くなく、その都度修理を行う必要があった。
- ・今年度は衣類補修依頼が少なく、雑巾や名札作りを多く依頼した。

4 アンケート

- ・今後の対応を向上させるためにアンケートに回答して頂いた。
- ・各グループの代表者の方に用紙をお渡しし、回答にご協力して頂けた。

5 ボランティア受け入れ状況

- ・ 6月24日 川西地区 4名
- ・ 7月22日 和田地区 3名
- ・ 10月28日 神杉地区 3名
- ・ 11月25日 八次地区 4名
- ・ 3月23日 川内地区 5名

6 反省・課題

- ・送迎、準備、連絡を分担し、係で協力しながら実施できた。
- ・ミシンの整備が不十分で機械トラブルが多かった。また、機械に関する知識があまり無く、故障などへの対応に時間がかかった。来園されたボランティアの方がより作業をしやすいように、物品の保守管理を行い、機械への知識も深めていく必要がある。
- ・丁寧かつ楽しい雰囲気でのボランティアの方への応対が出来るよう工夫をしていきたい。

（渡邊 武、若床まゆみ、中野基行、高森 強）

3 8 実習

- 1 目的：自閉症や知的に障害がある方たちに対して、支援方法や人権尊重をふまえた理念を実習生に伝え、福祉専門職に就くために必要な技能と知識の一端を学んでもらう。

2 受け入れ状況：

令和2年1月23日～2月12日 中国学園大学 こども学部こども学科 1名の予定だったがキャンセルの申し出があり実施なし。

（濱本 豊、見土 唯、川本亜由美）

3 9 あいさつ運動

- 1、主旨：挨拶はコミュニケーションのきっかけづくりになります。職員間、職員から利用者へ積極的に挨拶をしコミュニケーションを図り良い関係を築きましょう。

目標：「元気よく、大きな声で、相手の目を見て、気持ちのいい挨拶をする。」

2、実施計画

①利用者、職員間の挨拶を積極的に行う。

- ・あいさつレベル5の達成を目標とする。

- ・司会者に朝礼時と施設見学時にタスキと腕章を付けてもらい、「笑顔で」「元気にはっきりと」その日の出勤職員や各グループの利用者に率先して挨拶を行う。準備物：タスキ、腕章

② 職員室の掲示板に「あいさつ運動」のポスターを貼る。

- ・毎月、係員が交替で作成し貼り替える。(B4画用紙)
- ・自由に個性を生かし、標語や絵などのポスターを1枚作成し2ヶ月の掲示期間とする。
(5月：中岡、6月：上川、7月：岩増、8月：横山、9月：中岡、10月：上川、
11月：岩増、12月：横山、1月：中岡、2月：上川、3月：岩増)

③ あいさつは、マナーや接遇にも関係しており、利用者や職員間の言動や態度などでこれは？と思われたことに対しては係員が各グループの課長と話し積極的に正していけるよう声掛けや態度で示していく。

3 内容

- ・月に一度会議をおこない会議録を作成する。(都合が合わないときはサイボウズ内でやり取りをする)
- ・施設見学記録票を確認し、毎月会議録に記録していくことで周知し改善に向けて行く。
- ・模範的な見本となる挨拶、姿勢、態度等を具体的に明示する。
- ・現場を離れるときに、行き先や、仕事内容を明確に声を出して他の職員に伝えているか(報告・連絡)の啓発を行う。
- ・利用者に対する言動や態度にも注意をする。(相手に体を向ける、あいさつの仕方、同じ高さ目線に立ち挨拶をする。声掛けの仕方など)

4 実施状況(実施内容・変更点など)

- ・毎月、担当者を交替し管理棟職員室に、標語や絵などのポスターを貼り出した。(B4画用紙)
- ・月に一度サイボウズ内又は口頭で会議をおこなった。
- ・施設見学の記録用紙をまとめ会議録に記録した。

5 反省

- ・施設見学の記入用紙をまとめて会議録にただ記録するだけではなく改善点がある場合「こうしましょう」等のよびかけをする感じで会議録に記録できたら良かったと思う。

(中岡健太郎、岩増文生、重廣由美子、松本和幸)

40 環境美化

1 目的：・学園全体の環境美化を整える

- ・サイボウズ内で掲示板を立ち上げ、職員の環境美化に対する意識を高める
- ・綺麗な職場環境・生活環境作り、改善へ繋げる

2 活動内容

- ・サイボウズ内に環境美化掲示板を作成し、全職員に学園内の環境美化に関わる意見をかき込んでもらい、1ヶ月単位で意見を報告書に集約し提出する。報告書等から対応・改善出来る内容は、グループ内での清掃時や営繕活動時に実施してもらう。場合によっては学園で対応してもらう。
- ・掲示板に書き込まれた内容の中から、担当者が個人的に特に気になることについてポスターを作成し、翌月1か月、職員室に掲示する。
- ・意見募集箇所

6月：遅出駐車場や公用車車庫周辺
7月：学園進入路
8月：日勤駐車場周辺
9月：グラウンド・多目的棟周辺
10月：早出駐車場周辺
11月：管理棟玄関
12月：管理棟職員室
1月：活動センター内
2月：管理棟トイレ
3月：管理棟更衣室

3 まとめ・反省

- ・今年度より、サイボウズ内に毎月掲示板を作成し、職員から環境美化に関する指摘や意見を募集したが、掲示板立ち上げ当初は、指定箇所は設けず、学園内全体で意見を募集した為か、書き込まれる意見が少なかった。6月より月毎で指定箇所を設定し、掲示板を作成する方法に変更した。また、グループ会議内でも意見を募集したこともあり、少しずつ意見が集まるようになった。書き込まれた意見に対しては、12月より運営会議で検討し回答をもらえることとなった。職員の環境美化に対する意識向上にはまだ時間はかかるが、ポスター等の目に見える形での啓発活動の継続が重要であると感じる。

(藤井佑紀、土橋羅夢、竹間和輝、奥田崇喜)

4 1 掲示板

1 活動

- ・管理棟職員室のホワイトボードに情報誌、カタログ、広報誌、お便りを掲示し、併せてサイボウズに題名、発行者、種別、掲示期限を打ち込み周知した。
- ・サイボウズ内に打ち込んだもので掲示期限を過ぎた物に関しては打ち込んだ職員が消去していきサイボウズ内の整頓にも留意した。
- ・ファイルを用意し、保管すべき掲示物をファイリングするようにした。
- ・掲示物は職員が協力して期限の過ぎた物を撤去し、職員間の連携も保てたと思う。
- ・見栄えが悪くならないようバランスを考えながら掲示した。
- ・期限の切れた書物はリサイクルへ活用することができた。

2 反省

- ・業務等で参考になる資料などは、ポップを活用し、目立つように掲示するなどの工夫があればよかったと思われる。
- ・ホワイトボードに掲示する際、広報紙と案内を分けて掲示することを心掛けた。

3 まとめ

毎週に交替しサイボウズへの入力、管理棟職員室ホワイトボードへの掲示を行った。係職員で声を掛け合うなどの連携はとれていたが、サイボウズの掲示板は掲示期限が終わってから削除されていない事が少なかった。来年度は業務に役立つ掲示物はポップなどを貼り付け、多くの職員に見てもらえるような工夫を行っていきたい。

(佐々木優希、金田和夫、河合淳雄、山下英明)

4 2 エコロジー

1 目的

- ・限りある資源の活用方法と環境に配慮しエコロジーに対する意識を高める
- ・施設内で実践できるエコ活動の啓発を行う。

2 内容

- ・毎月決めたエコ目標にそって、担当係員がポスターを作成する。
- ・エコ目標に対して、サイボウズで4月は稟議書が決裁後すぐに、その後は月初めの担当係員の勤務時に全体メールを発信する。
- ・月の20日迄にどの程度出来たか、又、工夫してみたところ等を全体メールで感想を貰う。
- ・担当係員は、出た意見や感想を記入し報告書を作成する。
- ・毎月の目標と担当職員

4月 「節紙」 紙ゴミの減量にご協力下さい。（掛川）

5月 「節水」 ひとり一人が水の大切さを知りましょう。（松本）

6月 「エコドライブ」 余計な荷物は降ろしましょう。（岩増）

7月 「省エネ」 空調の温度管理に気を配りましょう。（今田）

8月 「節電」 電気の使用は必要最低限にしましょう。（掛川）

9月 「リサイクル」 資源を上手に再利用しましょう。（松本）

10月 「節紙」 紙ゴミの減量にご協力下さい。（岩増）

11月 「節水」 ひとり一人が水の大切さを知りましょう。（今田）

12月 「エコドライブ」 余計な荷物は降ろしましょう。（掛川）

1月 「省エネ」 空調の温度管理に気を配りましょう。（松本）

2月 「節電」 電気の使用は必要最低限にしましょう。（岩増）

3月 「リサイクル」 資源を上手に再利用しましょう。（今田）

3 反省・課題

- ・ポスター作成が4、5月は取りかかりが遅かった。6月からは毎月ポスターを作成しサイボウズでの周知、啓発を行った。
- ・月末には全体メールで感想、反省をもらい、報告書を作成した。8、12月の標語の作成を怠ってしまった。
- ・個々で価値観や思いが違う為、どこまで周知に力を入れればいいのか考える事があった。
- ・必要最小限のエネルギーを使用する事の難しさを感じた。普段からもっと勉強して行くことが課題だと思った。

（掛川陽介、岩増文生、今田弘之、松本和幸）

4 3 見学

実施概要

電話等での依頼により、見学日、内容等の希望を聞き、行事予定表に沿って日程調整を行った。特に、生活棟の見学については、利用者への影響や、プライバシーの保護を優先し、時間帯など配慮を行い実施した。

1 見学受入日

- ・5月29日 水曜日 2名 施設見学（入所を考えて ご家族、北広島町障がい福祉課職員）

- ・ 7月12日 金曜日 3名 施設見学（入所をを考えて 本人、ご家族）吉長Drとの面談を実施
- ・ 7月29日 月曜日 2名 施設見学（短期入所をを考えて ご家族、北広島町相談支援所職員）
- ・ 8月7日 水曜日 1名 施設見学（入所をを考えて ご家族）
- ・ 8月16日 金曜日 2名 施設見学（短期入所をを考えて 本人、ご家族）
- ・ 8月25日 日曜日 2名 施設見学（短期入所をを考えて 本人、ご家族）
- ・ 9月1日 日曜日 1名 施設見学（三次高等技術専門学校 学生）
- ・ 9月30日 日曜日 7名 施設見学（北広島町民生委員 他）
- ・ 10月21日 月曜日 2名 施設見学（短期入所をを考えて ご家族、育成会職員）
- ・ 11月4日 月曜日 3名 施設見学（短期入所をを考えて 本人、ご家族）
- ・ 11月18日 月曜日 4名 施設見学（入所をを考えて 本人、ご家族、安佐南区生活支援センター職員）
- ・ 2月5日 水曜日 4名 施設見学（入所をを考えて 本人、庄原市相談支援所職員 他）
- ・ 2月13日 木曜日 4名 施設見学（入所をを考えて 本人、福山市障害者支援センター職員
相談支援事業所職員）
- ・ 2月29日 土曜日 2名 施設見学（入所をを考えて ご家族）

2 見学者受け入れマニュアルに沿って実施した。ともえ学園要覧は毎月、月初めに更新し見学者にお渡しし、見学後にはアンケートにご協力していただいた。（塚本博志）

4 4 福祉協会

1 概要

- ・ 広島県知的障害者福祉協会の各施設の支援スタッフ部会員として、施設から選任され参加した。
- ・ サービス提供における必要な視点、支援技術の情報交換や他施設の見学を通して話し合いながら資質の向上に努める。

2 支援スタッフ部会義

①2019年 6月19日 令和元年度第1回支援スタッフ部会議

場所：障害者支援施設いくせい

②2019年12月13日 令和元年度第2回支援スタッフ部会議

場所：広島県社会福祉会館

③2020年 1月29日 広島・広島西・備北圏域支援スタッフ部会

場所：瀬野キャンパス

3 内容

①施設見学 実践報告 グループワーク

②講演

③施設見学 講演

4 感想

- ・ 施設見学をさせて頂き、活動場所や生活場所で配慮している事や工夫している事を学ばせてもらった。講演では障害者の親の気持ちを聞かせて頂いたり、利用者の高齢化にともない準備する事や心構え等を学んだ。頻度は多くなかったが、内容の濃いスタッフ部会になったと思う。

（竹間和輝）

4 5 ホームページ

施設の情報公開と共有、交流をより深めるためすみやかな更新とコンテンツの充実を図った。
ブログは毎日更新し、フェイスブックでも出来事を公開した。

(前岡孝司)

4 6 施設整備

散髪室床改修工事（更新時期を迎えたため）
乗用車更新（更新時期を迎えたため）
生活棟中庭屋根設置工事
渡り廊下屋根拡張工事
検食用冷凍庫更新（更新時期を迎えたため）
給湯配管漏水補修工事（床下ピット内で発生）
非常用発電機修理（潤滑油プライミングポンプ不良）
排水路草刈り
広島県による歩道陸橋撤去工事
居室サッシ修繕工事（痛みの激しい箇所の改修）
厨房冷蔵庫、冷凍庫更新（更新時期を迎えたため）
活動センター床改修工事（更新時期を迎えたため）

2019年度 事業報告書

2020年6月1日発行

ともえ学園（障害者支援施設）

〒728-0002 広島県三次市西河内町10250番地

電話 0824-62-5130 ・ FAX 0824-62-1934

E-mail tomoe@pl.pionet.ne.jp